

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①必須科目ではなく、受講生は「受講動機」にも見られるように、純粋に何某かの研究を経験したくて受講したものである。</p> <p>②例年通り、研究を始めるにあたって個々人との面接を行い、実現可能な研究テーマを設定した。</p> <p>③例年もよくあることであるが、3年次後半から就職活動に入るため、研究に着手しないまま約半年を過ごし、その後は国家試験の受験勉強に入るため、特に成績の芳しくない学生は、結局、研究に着手することなく1年間を過ごしてしまいがちになる者が生じる。今年度は受講生6名のうち3名が研究を完遂し、残り3名については最後まで研究に着手できず、途中で受講を放棄した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講生数は、途中で受講を放棄した3名を除くと、3名が受講した。</p> <p>②3名は、「研究計画」をきちんと立て、計画的に遂行した。卒業論文も見事な出来栄で仕上げ、大変、興味ある実験結果も得られた。</p> <p>③成績は文句なしの「秀」を3名ともに達成した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>研究の立案、遂行、まとめの全過程を通じて、「知識理解」「思考判断」「意欲感心」のいずれにおいても高度なレベルに達した。以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>前述したが、年々、就職活動および国家試験受験勉強のため、研究にまったく未着手の状態を受講を放棄する学生が増えている。就職や国家試験が、古い時代に比べて難しくなったとは思えないので、近年の「困難なことを避ける」という学生気質が反映されているのであろう。本科目については、教員側でも、今後どう対処していくか、協議の必要性を感じる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>研究を実施した受講生の達成度は、大変、高いレベルに達している。今後も、意欲のある学生には丁寧な指導を心掛けたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、これまでの専門基礎科目および専門科目で学んだ中で、学生が関心を持った領域から、担当教員との話し合いでゼミのテーマを設定し、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深めることを目的としている。また、自己啓発に努め、実社会において、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることも目標として掲げている。</p> <p>本科目は、選択科目ではあるものの、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成との位置づけであり、学生は開講ゼミの中から、関心を持ったゼミを選択している。今年度は新型コロナによる緊急事態宣言や学生の大学入構の禁止措置等により、予定していた活動のほとんどが制限されたが、そのような中でも感染症対策を講じながら、できる限り活動を行ってきたが、例年の内容に比し、学生にとって十分な活動ができたとは言い難い。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の成績は、全学生(100%)が理想的レベル(80点以上)に到達しており、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。学生は提示されたさまざまな課題に対し、十分に予習復習時間を確保し、積極的に取り組んでいた。しかし、本年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から、学生の大学への入構がほとんど認められなかったため、例年のような活動や地域貢献はほとんど実施できなかった。</p> <p>今年度は『地元企業との協働による栄養バランスに配慮した・弁当メニューの開発および提案』『連携公開講座における給食の提供(献立作成・試作・発注・準備・大量調理等)』『レシピコンテストへの応募』等について、予定していたが、弁当メニュー開発以外は全て実施できなかった。弁当メニュー開発では、学生が自身のアイデアを駆使し、管理栄養士のたまごとして、栄養面や旬にこだわったお弁当の企画を行い、四季それぞれに企画、販売に至った。学生自身が目標を高く掲げ、常に努力し、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけたことに繋がったものと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成として位置づけられており、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深め、実社会において、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。さまざまな課題に対し、積極的に取り組み、解決へと導くことは、将来、管理栄養士として直面する様々な課題を解決する能力を養うことに繋がったものと思われる。また、様々な食に関するゼミ活動を通して、管理栄養士に必要なスキル等を学んだことは、専門的知識・技術修得の重要性の気づきになったものと考えられる。しかし、今年度は新型コロナによる緊急事態宣言や学生の大学入構の禁止措置等により、予定していた活動のほとんどが制限されたが、そのような中でも感染症対策を講じながら、できる限り活動を行ってきたが、例年の内容に比し、学生にとって十分な活動ができたとは言い難いことから、本科目の評価をすることは困難であったものの、学生の到達度自己評価は高かったことから、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察される。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成として位置づけられており、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目標としている。本科目の学修準備性として、予習復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、全学生が理想的レベルを達成した。今年度は新型コロナによる緊急事態宣言や学生の大学入構の禁止措置等により、予定していた活動のほとんどが制限されたが、そのような中でも感染症対策を講じながら、できる限り活動を行ってきたが、例年の内容に比し、学生にとって十分な活動ができたとは言い難いことから、本科目の評価をすることは困難である。ただ、学生の到達度自己評価は高かったことから、様々な課題に対し、積極的に取り組み、ゼミ活動を通して、管理栄養士に必要なスキル等を学んだことは、将来、管理栄養士として直面する課題を解決する能力を養うことに繋がったものと思われる。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大腸がんと乳がんは、近年日本人で増加しており、欧米型食生活との関係が指摘されている。がんの中でも検診方法や治療法が確立されており、早期発見すべき代表的な疾患である。病院への就職に興味を持つ11名の学生が興味・関心を主な動機として本ゼミに参加した。各自、大腸がんまたは乳がんを選び、「がんの予防と食事との関連」をテーマに、文献検索等によって情報収集・考察し、論文形式でレポートにまとめることを指導した。グループにて作成・発表することを想定していたが、ほぼ1年間遠隔対応となったため、資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について、遠隔にて指導を行った。当初は市民公開講座にて地域住民への情報発信や健康支援も行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のために公開講座を中止したため、調べた情報をもとに要点をわかりやすくまとめ、一般市民向けに配布することを想定したオリジナルのリーフレットを各自作成することとした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>学生数が11名と多く、取り組みに対するモチベーションや熱意はさまざまであったため、目標達成に対する自己評価には開きがあった。がんは患者数が多いにもかかわらず正規の授業で学ぶ機会が少なかつたため、新たな知識を習得したことに対する自己評価は高く、学生が主体的にゼミ活動を行ったことが伺えた。事象を理解する視点や考え方の獲得・課題検討力・判断力・学びを深める意欲についての自己評価も高く、統計をはじめとした各種資料を読み解く中で達成感を得たものと考ええる。多くが課題以外の学習にも取り組み、最新の知識を得ることの重要性を理解したものと考ええる。なお遠隔指導下で多くがインターネットを利用して調べており、積極的に利用して学びを深めるよう促すとともに、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶ方法や引用の方法、著作権についても教育・指導した。最終的には論文形式のレポートに加え、一般向けにわかりやすく説明したリーフレットを各自作成しており、コミュニケーション力や表現力の基となるスキルも身に付けることができたと考ええる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目である。管理栄養士として就業した際に、患者指導や市民教育の場で情報発信することを想定して学修内容を設定しており、学生もそのことを理解した上で参加した。各自がオリジナルの成果物を作成し、新たな知識を得たことを評価していることから、内容的に妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して学修内容を構成した。全員が、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業選択の参考になった」と肯定的に自己評価しており、内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>論文形式でのレポート作成・一般向けリーフレット作成について、遠隔にて指導を行ったが、各自が主体性を持って意欲的に学修に臨んだ。オリジナルのリーフレットは、調べた情報をもとに要点をわかりやすくまとめて作成し、がんの予防に有益な食材を使ったレシピも掲載した。若者ならではの感性で、レイアウト、色彩、イラスト等にこだわっており、成果物は期待以上の出来映えであった。また本学科では、卒業ゼミ担当教官はゼミ学生のアドバイザーを兼ねているため、研究指導に加えて、就職活動におけるエントリーシート作成や面接対策等に関するサポート、および国家試験に対する支援を並行して行った。通年での履修科目であるが、後期の後半には国家試験が迫るため、多くの学生は夏期休暇中も計画的に集中して研究を進め、早めにレポートやリーフレットを提出することを心がけていた。学生によっては就職活動時にこれらの成果物をアピール材料としても提示することができており、4年間の学修の集大成となり得たと考える。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>論文形式のレポートを作成する過程で出典や引用文献を明示する必要性について指導したことは、将来論文等を執筆する際の規範を学ぶ一助となったと考える。加えて一般市民向けに配布することを想定したオリジナルのリーフレットを作成したことは、医学的知識のない方が病気を理解するために知りたいと思っていることは何かなど、患者や市民の立場になって物事を考える力を身につけ、管理栄養士として栄養指導等を行う上での具体的な知識や患者とのコミュニケーション能力を養うことにつながったと考える。一方で、遠隔授業下で11人の学生に対して個別で指導を行ったことは、学生にとっても教員にとっても負担が大きいものであった。学生の取り組み方や達成度には開きがあり、個々の学生に目が届きにくく細やかな指導ができなかったことは反省点である。次年度は、遠隔指導であっても、学生をグループ分けてグループごとに一つの成果物を作成するなど指導形式を変えることを検討したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①卒業ゼミは、4年次の選択科目であり、学生が興味のあるテーマを選択する。受講動機は「関心のある内容である」100%であった。3年前から単位数確保だけを動機にゼミを履修してしまうと、活動していく中でゼミ活動への意欲が失せる可能性があり、結果としてゼミ全体のモチベーションの維持が難しくなったため、ゼミを履修前の説明時（面談時）に、より詳しい説明を行い、意志の確認をした、今後もそうしていく。またゼミでは、ゼミ活動以外に相談や国家試験対策等のサポートを行ってきた。今後も学生たちの大学生活でのサポートを継続していく。</p> <p>②ゼミでは、福祉学科が実施しているほほえみの会（低出生体重児とその保護者の会）で、福祉や看護の学生たちと協力して、栄養や食事のサポートだけでなく遊びのサポートも行う予定であったが、2020年度はコロナ禍でこの活動が一切実施できなかった。学生たちに、このほほえみの会の活動を行っていくなかで、自然とチームで活動することの大切さを（3学科協働の精神）身につけて欲しかったのだが、活動が一切できず、学生たちからもゼミから得たものが少なかったという意見があり、ほほえみの会の活動に置き換わるものを提供できなかったこと（子どもたちの間食献立作成などは実施したが）を反省している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(関心意欲)、DP4(態度)、DP5(技能表現)すべてにおいてゼミの活動や提出物によって評価した。ゼミ活動が就職選択の参考になった「かなりそうだと思う」と2名の学生が回答しており、こどもに関わる栄養管理業務を選択した学生にとっては、役に立ったことが考えられる。</p> <p>②ゼミ活動においてはシラバスの計画通りにはいかないため、前期スタート時（実践活動では後期スタート時）に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にはしていないという回答は、やむを得ない。今年度は、コロナ禍で大学入校ができなかったため、課題学習や自己学習のために図書館の利用は殆ど出ていない。今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次の選択科目である。本科目履修者の学習到達度から、選択教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>上記4にも記載したが、ゼミ活動においてはシラバス計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。課題学習や自己学習のための図書館やインターネットの利用が低かったことに関して、今後は大学に入校が可能であれば、学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。図書館ガイダンスの実施も検討している。2021年度は、ゼミ活動以外にも可能な限りゼミ生と接する機会を増やし、ゼミ活動、国家試験勉強、就職活動など様々な点で学生のサポートをしていきたいと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の位置づけは、2020年度までは4年次の選択科目であり、学生が自ら希望するテーマ（教員）を選択していく。選択科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも学生の反応をみつ、常に意見を取り入れ、ゼミ（授業）改善を行っていく。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、選択科目であり、できるだけ本人の希望するテーマに沿ってゼミを進めていった。</p> <p>②11名の希望者のテーマは、障害児を対象とした食育活動、高齢者施設を利用する高齢者の栄養調査などであった。そのため、対象者にあった対応や支援の方法について学べる活動とした。</p> <p>③食育活動では、食育テーマの決定、プレゼン方法、実習の準備や流れ、全体の総括などを、栄養相談では、高齢者の対応、栄養指導法、機器測定方法など学べることを目的とした。</p> <p>④本人の意思により、それぞれのゼミ活動に参加していたため、学生のペースにあわせた活動とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成されなかった	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成されなかった	やや達成されなかった
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>コロナ禍であったため、学外のゼミ活動を全くすることができなかった。遠隔で論文の抄読会に切り換えた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の選択科目であるが、自分で選んだテーマについて、自分の力で文献を調査・検討し、最終的にまとめることが目標であるため、内容的には妥当であると考えている。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 コロナ禍であり、外部の活動や調理実習などができず、実践的活動の場を持つことができなかった。</p> <p>③まとめ 以上からコロナ禍のゼミ活動内容の検討が必要である。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達度自己評価の平均点数が3.3点であった。授業の質評価においては、平均点は、3.9点であった。コロナ禍であったため実践活動はできず、論文の抄読を行った。直接的な指導や活動ができず、積極的活動が控えられた。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目・専門分野にあたる本科目は、自分で調べ、自分で企画し、実行し、結果を出せることが、目標である。これまでの学習に加え、企画力や実行力、責任感や社会性なども問われ、自身の実力が試される科目である。しかし、今期コロナ禍で外部活動や調理実習などの活動が全くできなかったため、今後このような状況下であった場合、学生ができること、社会人として管理栄養士として卒業働く上で、活用できる知識やスキルを身に着けることのできる活動内容を検討し、変更する必要がある。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅰ	4	通年	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①4年生になって、国家試験の受験を目標に、社会、環境と栄養、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学の知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な公衆衛生学、解剖生理学、生化学、食品学、食品衛生学、基礎栄養学知識および考え方を修得し、国家試験問題に対応できるように心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初にテストを行い、その後テストの解説を行い、学生の意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は60(±12)点であった。理想的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したものは約50%であった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は同等であった。</p> <p>③学生による授業評価においては、「過去問を解いて復習をした」という意見を多くいただいた。今後とも、わかりやすく、復習しやすい資料作りと授業内容に心がける。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」である。管理栄養士国家試験を受験するために非常に重要である。学生の受講動機は国家試験受験資格を取得するためである。授業内容は国家試験に出題される内容であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。定期試験にて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、態度に関する達成度が高かった。毎年国家試験の動向を見ながら、内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.7、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたと意欲をもつことができた」の平均が3.5と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、学生がより学習意欲を持ち、国家試験に臨めるモチベーションを持てるように改善していきたいと考える。</p> <p>学生の意見としては、「過去問を解いた」が多く、学生が授業の内容を踏まえて、国家試験に向け、しっかり取り組んだことがうかがえる。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「管理栄養士演習VI」に引き継いでいく予定である。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業の最初にテストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。今後は予習課題の提示などで改善を図りつつ、復習をやりやすくするなど、さらなる改善に努めたい。</p> <p>以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、テストで考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを今後とも続けていきたい。</p> <p>配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善を行いたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『応用栄養学』『栄養教育論』『臨床栄養学』『公衆栄養学』『給食経営管理論』分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、学生全員が『国家試験合格』を目標としていることから、多くの学生の受講動機が『必修科目である82.1%』『資格取得に必要である75%』との理由であるのは当然のことと思われる。管理栄養士演習Ⅰ、Ⅱは週2コマの講義であり、この講義のみでは国家試験対策としては到底不十分であることから、2020年度も、別途、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ担当教員による国家試験対策の補講を実施した(前期：6コマ/週、後期：8コマ/週)。また、学習の準備性では、自らの国家試験合格のためということがあり、90%程度の学生において、予習復習時間は確保されていた。但し、後期の数コマを除いては、殆ど遠隔による講義であったために、学生の講義への集中度をみることができないままの講義展開になったことは国家試験合格率の低下の一因とも考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は58.2点であり、57%の学生のみ標準的レベル(70点以上)に達することができた。残りの43%は本試験不合格であった。実際には、『秀：0名』『優：0名』と理想的レベルに達している学生はおらず、『良：8名(12%)』『可：29名(45%)』であった。しかし、学生の到達度自己評価では、95%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答しており、学生による自己評価と試験結果に乖離が見られた。一方、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』と多くの学生が回答していた。このことから、学生の自主的な学びの科目としては、本科目における教育目標は達成できたものと予想されるが、今回の第35回管理栄養士国家試験合格率は、73.8%と全国の管理栄養士養成施設の中では大変低く、この結果を受け、本試験の時点で標準的レベルにまで学生達を至らせることが、管理栄養士国家試験合格への必須事項となることが考えられるうえ、本試験の時点で標準的レベルに至ることが出来なかった学生たちの、国家試験までのフォローについても、検討を重ねる必要があると考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次に通年科目として開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、達成度評価については、学生全員が国家試験合格を目標としているのであれば、全員が標準的レベルを達成すべきではあるものの、実際は57%と大変低い値であった。そして、実際の管理栄養士国家試験においても73%と合格率が低下したため、内容的妥当性については問題ないものの、講義形式や国家試験直前のフォローについては検討する必要がある。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』と回答していたことから、予習復習の時間は確保されていたと考えられる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の管理栄養士免許取得のための科目として位置づけられているが、2020年度は標準的レベルに達した学生が少なかった点に関しては、試験方法の見直し等行っていく必要はある。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しているので、講義内容等についての問題は無いものと考えられる。しかしながら国家試験結果を受け、遠隔ではなく対面による講義や模試の実施を含め、国家試験直前まで、学科として学生にフォローしていく必要があり、検討課題とする。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養教諭の使命と役割を理解し、児童生徒の食に関する実態を把握した上で、食に関する課題を解決するための意識・態度・姿勢を持つことを目的としている。さらに栄養教諭として学校教育に対する認識を深め、どのような食の指導を行うことが必要であるか考える力を身に付けることに重点をおいている。本科目の受講生は、栄養教諭を目指す学生であり、「資格取得に必要である」ことが受講理由である。本科目を受講するにあたり、栄養教諭に必要な資質として主体的に取り組む力が必要であるため、授業以外でも自ら学ぶ姿勢を身に付けるよう促していく必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の受講生は8名であり、授業アンケート等で客観的に評価することは困難であるかもしれないが、到達度自己評価では、すべての項目で全員が、そうだと思うと答えており、目標は達成したと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、教職に関する科目の中に位置づけられており、栄養教諭の使命と役割、職務について理解し、栄養教諭としての意識・態度・姿勢を持つために重要な科目である。到達度自己評価において、「職業選択の参考になった」の項目では平均点が高く、栄養教諭の職務等が理解できたのではないかと考えられる。その他の項目に関しても、全員がそうだと思うと回答しており、内容的妥当性はあると評価できる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は8名であり、授業評価からの客観的な判断はできないかもしれないが、最終成績や提出課題より栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる。また、科目の特性上受講者数が少なく、授業評価アンケートでは客観的な意見を捉えにくいいため、適宜学生の意見を聞きながら改善に努めていきたいと考える。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>受講生が8名であったことから、理解度に合わせて丁寧に進めることができた。しかし、途中からオンライン授業となり、対面授業でしかできないこと等に関しては、教育実習に向けてフォローが必要であると考えます。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	扇谷 恵美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3~4	三期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本年度は、昨年度に重きを置いた「学生の主体的な学びを重視した展開」を更に充実するように配慮して、授業計画や授業内容の立案をした。そのため、講義中心の授業形態ではなく、スピーチ練習をほぼ毎回取り入れたり、学生に調査活動をさせて要点や意見を発表させたり、現場の栄養教諭との意見交換の場を取り入れたりなどの時間を多く設定した。演習においては、プレゼンテーションや模擬授業を多く取り入れて、栄養教諭としての実践にすぐに役立つ実務内容を習得させるように努めた。教育実習の査定授業に向けては、希望者へは個別指導を複数回実施した。個別指導は、各学生の希望時間に合わせるように工夫した。なお、学生の全員が、受講理由を「栄養教諭の資格取得の為」としているの、学校現場の資料や栄養教諭の最新の様子を多く伝える時間を、随時設けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>レポートや意見・感想、発言状況、スピーチ、プレゼンテーション、教育実習状況・成績等の多面的な視点から評価を実施した。これらは、独自に設けた5段階評価を活用したが、平均4、5点であった。最低点の学生でも、平均が3、91点あり、最高点は、4、99点であった。学生へのアンケート結果においても、到達度自己評価すべての項目で、5点満点の4点以上である。一方、教育実習先において殆どの学生が、授業での指導も子どもへの対応もいずれもスキルが高いと、好評を得た。これらの結果から、目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

①、CP、カリキュラム上の位置づけからみての内容的妥当性→ 本科目は、教職に関しての基礎的な内容から、栄養教諭の実務的な内容へと段階が上がる転換点となる科目である。学生は、良い成績を収めており、内容的に妥当であると考えている。

②、DPからみての内容的妥当性→ 学生は良い成績を収めており、内容的に妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」 学生の意見など

教育実習後に学生達は、「教育実習の準備は大変だったけれど、実習は充実していた」

「たくさん準備をしてから実習に行く理由がよくわかった」「実習が上手く行って、楽しかった」「栄養教諭にやっぱりなりたい」等と記述していた。そして、3年生の前で皆自信をもって、自作のパワーポイント原稿で実習報告をしていた。一方、実習先の学校からも学生のレベルの高さを言われた。こうしたことから、目標は達成されたと考えている。次年度は、学生のIT活用スキルが更に上達する「場づくり」を工夫することが望ましい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の達成状況は高評価だと、総括的に判断する。次年度は、学生のITスキルとコミュニケーション力をさらに高める場づくりを、授業の場で工夫することが望ましい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（栄養教諭）	4	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的技能と資質・能力の向上を目標とする。栄養教諭を取得するために必須となる科目であるため、受講動機は資格取得に必要であると全員が回答した。本科目では、将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことに重点をおいているため、開講時に各自の栄養教育実習の経験を踏まえ課題整理を行った。課題として挙げられた、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、表現力不足を解決するために、授業計画を行い実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、受講生が7名であり客観的評価はできないが、成績と達成度自己評価より教育目標は概ね達成できたと考える。成績は、提出物、発表(模擬授業及びプレゼンテーション)により評価を行った。</p> <p>学習量の評価では予習復習への取り組みは見られ、栄養教諭として自ら学ぶ姿勢が見られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置し、栄養教育実習を終えた後の教職科目の集大成となる科目である。そのため、栄養教育実習を振り返り各自の課題を見つけ、課題を解決し、栄養教諭として社会にでるための実践的技能と資質・能力の向上を高めることを目指している。学生の最終成績や到達度の自己評価から内容的には妥当であると考えている。</p> <p>②DP, 行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は、栄養教諭としての知識・技術の修得や、コミュニケーション能力や表現力を高めることを主な行動目標としている。各自の課題から、模擬授業など、学生が体験を通して学べるような授業とした。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目では、将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことを目標としているため、開講時に各自の課題整理を行った。課題として挙げられた、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、表現力不足を解決するために、オンラインの実施ではあったが、模擬授業やプレゼンテーションを実施した。また、外部講師として現職の栄養教諭を招きオンラインで講義を実施することで、教育現場との関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識することに重点をおいて実施した。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、栄養教諭を取得する学生にとって集大成となる科目である。教育者になることを自覚し、自己の課題を持って授業に取り組む姿勢が求められる。授業は、学生が主体的に学べるように演習や体験を多く取り入れた内容とした。また、学科横断的な取り組みとして、他学科の学生ともグループワークを経験し、それぞれの教育実習の経験からディスカッションを行うことで、他教職員との連携やコミュニケーション能力を培うことに繋がったと推測する。以上のことから、授業全体を通して教職科目の集大成として概ね目標は達成できたと考える。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。</p> <p>②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、youtubeチャペルの視聴意識を高める。</p> <p>③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	達成された	達成された				
	<p>最終的な成績の平均点は85点であり、再試対象は0名であった。</p> <p>全員が標準的レベルに達していた。</p> <p>知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。</p> <p>実践の点ではyoutubeチャペルを視聴しレポートを実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容の妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。 学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0」や、自発的学習の解答に「していない」があったことから、授業の内容をyoutubeチャベルに関連付けることが必要であると考ええる。 また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この事は課題としたいと考える。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、youtubeチャベルの視聴と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることにもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。 ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	はい	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探索していく姿勢をもたなければならない。本セミナーは、初年次セミナーⅠおよびⅡで構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とする。</p> <p>初年次セミナーⅡでは、『初年次セミナーⅠ』の学びを基礎として、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズ『発表する』『討論する』を強化し、より一層、主体的かつ能動的学習を展開する。基本的スキル（聞く・調べる・読む・書く・考える）の強化ならびに定着を図り、さらに、プレゼンテーションに発展させる。また、グループ内での討論を通して、物事を多面的・多角的に捉えて思考する力を身につけ、それらの考えを相手に分かりやすく伝える力を身につける。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は83.2(±6.0)点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。</p> <p>これ以上は意味を持たないが、理想的レベル(80点以上)は39名(78%程度)、標準的レベル(70点以上)は50名(100%程度)であり、標準的レベル以上を達成できた考える。</p> <p>「自己達成度」は平均値が全項目で3.9～4.4の間(中央値3～4)にあり、「授業の質の評価」も4.1～4.4であった。</p> <p>ただ、予習、復習の課題がないため授業以外の取り組みは29%(20名)が何もしていなかった。</p> <p>シラバスの情報を参考にしたもの62%(43名)、図書館を利用は遠隔のためほとんどご利用できていない。</p> <p>本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、更には管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。さらには、自発的学習へ繋がり、定着することが重要である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲感心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であったと考える。</p> <p>3まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性は問題ないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価については、平均値が4.1～4.4であったことから、授業の進め方は良好と考える。</p> <p>しかし、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ18.8% (13名)、42.0% (29名) いた。また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生も75%(52名)と非常に多かった。</p> <p>授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由は、「何をしていいかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「他で忙しかった」が多かった。学習への動機付けが重要と考える</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実習、ゼミ、更には修飾語も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、更なる充実した内容に進化したい。</p> <p>本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの協力的作業等を通して、「学生間の仲間づくり」、「学生間の信頼関係」、「個性と役割分担」「教員との一体感」、「教員のふれあい」等等、様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義ではえない「学生と学科教育」に重要な時間を当てることができたと思える。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、学期の始講と最終講にて、体力測定と体組成の測定を行ない、授業の運動量と身体組成や健康度との関係の把握と実体験できるようにした。</p> <p>②実技中も全員に準備したカロリー各カウンターを装着して、その一コマの時間の運動量（歩数、カロリー）を記録し、運動量と消費カロリーが把握できるようにした。</p> <p>③始業から3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法と機器の使い方」、「持久性トレーニングの方法と心拍数を基準とした強度設定」、「ストレッチ体操の方法と実用」について講習を行い、授業外に、また生涯にわたり自ら運動処方できるようにした。</p> <p>④各受講者は毎授業時にカロリーカウンターを装着し、目標を持って授業に望む様に促し、自己の運動量の把握させ、強い運動意欲を喚起した。</p> <p>⑤1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。</p> <p>⑥生涯スポーツでは、入学直後であることも考慮し、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チー</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		どちらともいえない	どちらともいえない			どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85点 (SD9.3)であり、再試対象は0名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものが48名(51名中)と予想以上に多かった。</p> <p>目標への到達度の平均値3.9で、知識習得に対し平均値4.2は評価できると考える。</p> <p>授業の質的評価は学習内容が明らかな評価が4.1と高かったが、遠隔ゆえが、話し合うや発表は3.6に留まった。</p> <p>学習の評価では予習、復習をしていない者が38/51名と多く、遠隔中の運動不足に関わる状況として理解できる。</p> <p>情報利用に関して、シラバスを見ていない者が17/51名と例年より少なくなった。遠隔下ではシラバスや、資料が重要になっている状況に則している。</p> <p>図書館の利用は0であったが、ネット利用者は26/51と増えている。</p> <p>欠席する者少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p> <p>意欲関心を高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われてい</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。遠隔下であっても、学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③受講動機で内容に関心がある学生が66.7%で、単位獲得目的の学生が54.9%である。「受講動機」が曖昧な学生も多いが、「学習到達度の自己評価」は98%が達成できたと考えており、人文の学生に妥当な内容であったと考える。</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>遠隔下では、物理的に個人種目しか実体験できない。しかし、単体指目の動画において、視点を持って観察する様に促したところ、色々な知識や関心を引き起こせたと考える。それにしても、遠隔時でも可能な運動種目を考案しておく必要を検討した。</p> <p>学生の評価は、遠隔時のストレス解消、これまでになくスポーツを見つめ、知識が膨らんだという意見が多く、マイナスの意見は見られなかった。</p> <p>長時間の座位を強いる状況下の配慮が100分5限授業は健康作りと逆行していることは明白である。改善すべきである。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>そもそも文学とは何かということも認識しないまま、ただシラバスを見て面白そうだから…とって受講する学生に対して私個人としては、日頃から文学的考察をしない学生たちの一歩として、大切な入口であると思っている。したがってそのような学生を心から歓迎するとともに「文学は実学である」ということを講義しなければ…と意を強くした次第である。よくぞ私の講義を受講してくれた…。文学的考察とは人の心、時代背景、歴史観、言語、表現といったすべての事柄を含むので、ひいては最終的に「いかに生きてゆくのか」という必要不可欠な概念の解答を導き出すヒントが与えられるものであること、そしてその根幹を掴むことを目的として講義した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>講義を重ねるごとに、学生の反応に活気があふれてきたこと、また学生からの感想文などをもとにこちらが返答する形に講義を進めていった結果、学生自身の学びの自覚が見られた後、80%近くまで士気の高まりが感じられた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

カリキュラムマップ等々における本科目の位置付から見た内容的妥当性は良かったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

リモート授業であったため、対面とのギャップを感じさせないよう工夫をして進めていったが、反応はかなり良かったように思う。上質な文学作品に多く触れること、昔と現代の思想の相違を作品の登場人物から探し出すということを、特に気遣いながら進めていった。本来ならば、源氏絵巻の複製版もみせていたが。いずれまたコロナ終息後には実施したいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況の総括的評価としては、今年度は80%である。さらに伸びるよう、工夫を重ねてゆきたいと考えている。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>回答者数は22名（回答率75.9%）であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」63.6%、「単位数を確保する」50.0%、「関心のある内容である」45.5%であった。教職必修科目であり、栄養教諭志望の学生が履修者の一定割合を占めていると思われる。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度は一時期を除いて、ほぼすべて遠隔授業で行ったことより、授業中の確認テスト、コメントおよび前期・後期終了時のレポートで成績評価を行った。素点の平均点は70.59点であった。再試対象者は1名、理想的レベル（90点以上）に達した者は0名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.3、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.2、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.0であった。他の項目の平均値も「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」以外の項目については3.7-3.5の間にあった。昨年度より大幅に上昇している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。加えて、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値が4.3、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.2、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値が4.1、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が4.0と昨年度より平均値が上昇した。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は17名、復習を全くしなかった学生は11名であり、履修者の半数が予習・復習をしていないことになる。今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外に学習していない理由として「取り組む時間がなかったため」、「何をしたらよいか分からなかった」、「授業で十分だった」などの記述が見られた。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習については、「復習」、「憲法に関するニュースを見た」、「関連事項をネットで調べた」などの記述がみられた。学生の意見について、「とても楽しい講義でした。ありがとうございました」との感想が見られた。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養としての、基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が9割以上を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>毎週の提出課題についてみると、回数が進むにつれて学習の成果が表れており、後半に向けては皆が完成度の高い内容の課題を出せるようになった。到達度自己評価の項目において、4であることから、教育目標は到達したと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考えられるため、「社会人としての基礎的な教養を身につけている」としたDP1-1に沿うものであり、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進捗は課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に質問を受けて指導にあたったりもした。遠隔授業の進め方については学生からアンケートを取り、意見を取り入れながら授業の作成に臨んだ。結果、授業の質評価では中央値5の評価が得られた。履修すべき語学の目標レベルには十分に達したと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後も韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は、1年次後期開講の選択科目であり、今回の履修生は33名、受講動機は「単位数を確保する」が64%、次いで「関心のある内容がある」が55%であった。</p> <p>授業の実施で大切にしていること、重点を置いたことは、社会（職場、家庭、地域）と自分との関係について、気付きや思考する機会があるように教材を工夫したことである。</p> <p>具体的には、タイピング教材には「男女共同参画基本法」を、Excel（統計処理）の教材には、①国立女性教育会館で作成・公開されている「ミニ統計集 日本の女性と男性」および、②実際のクレジット会社と銀行の金利を使った利息計算、そして自分の住む町について調べ分析し課題を見つけ、その課題解決について企画書およびスライドを作成する演習を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>シラバス記載の行動目標について授業アンケートの際に各自で3段階評価した結果、「出来る&amp;何とかできる」と回答した割合は以下の通りである。</p> <p>(1) 100%<input checked="" type="checkbox"/>社会および家庭での情報活用について紹介できる                      (2) 97%<input checked="" type="checkbox"/>インターネットを利用する上での危険とマナーについて説明できる                      (3) 100%<input checked="" type="checkbox"/>分かり易いリーフレットおよびスライドの作成ができる                      (4) 87%<input checked="" type="checkbox"/>公開されている統計資料を適切に読み解くことができる</p> <p>成績の評価は、A評価は18.2%、B評価36.4%、C評価27.3%、D評価15.2%、E評価3.0%であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は1年次後期開講の総合人間科学に属する科目である。</p> <p>1年次前期の情報処理演習基礎では、学生生活に必要な内容（学生としての自分と学び）を重点にし、後期の本情報処理演習では社会と自分との関係に重点を置いた内容にしている。</p> <p>前述の学生の目標達成状況から、DP,CP,カリキュラムマップ上、内容的に妥当だと考えている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>カメラおよびマイクをオフにしての遠隔授業では、学生のスキルが上達する過程を確認することができない。</p> <p>全受講生の授業中の操作画面を同時にみることが出来れば学生の習熟度に合わせたサポートが可能だが、システム上困難である。</p> <p>提出された課題（結果）だけで学生の上達の過程を正当に評価できるか否かについて思考している。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本学での遠隔授業の環境において、達成状況は良好だと考えている。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では9割以上の学生が肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、あっ票するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について、それぞれ1名、2名の学生が「全くそうではないと思う」と回答している。昨年度、予想を遥かに超える受講生であったため、大人数でも実施しやすいように、授業の方法を改善することを考えていたが、遠隔授業となり、また250名を超える受講生であったため、教員からの一方通行の形でしか授業を行うことができず、対応に苦慮した。課題が提出できているかどうか不安に思った多くの学生から一斉にメールが送られてくることがあり個別の対応が難しかったので、課題の提出ができていないかどうかについては個別の対応をせず、提出できていない学生にこちらから知らせるという形にしたが、それを「メールで質問してはいけない」と理解した学生もいて、そのことが大変不安だったということの後で聞いて、大変申し訳なく思っている。口頭と文書の両方で、指示が徹底するよう努めたが不十分であった。次年度は、伝わりにくい部分がないように工夫したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	はい	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業の望めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。特に、管理栄養士という資格を有しても働き方は多様であることに気づくよう、事例を示して働きかけた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。当初は対面で授業を実施していたが、コロナ感染拡大防止のためにオンラインとなった。外部講師の講義もオンラインでの受講となったが、コメントカードを見る限りでは、概ね学生たちは集中して話を聴くことができたようであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。依然として課題は人数が多いため個別的な対応ができないことであるが、コメントカードの回答に対してメールのやり取りのできた学生はいる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①公衆衛生学Ⅱは国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解、思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」は98%で、「資格取得に必要である」36%で、「単位数を確保する」は12%で、「関心のある内容である」8%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を丁寧に作成し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は74.4（±10.4）点であり、再試験者は2名であった。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していなかった。</p> <p>②次年度は成績を理想的レベル（平均点80点）まで上げる工夫が必要である。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者は97.3%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必須科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、関心意欲、態度に関しやや達成された。しかしながら、管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.5で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.5であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.5で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.5であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。学生の意見として、特になかったが、今後は授業の進めるスピードを調整し、面白い講義にしたいです。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、関心意欲、態度の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。</p> <p>講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	2	後期	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学科の教育内容とは異なるものの、生活者として、また将来的に栄養の専門職として人々に関わることや、更に国家試験出題範囲として試験に臨むことを意識して社会福祉、社会保障を身近なこととして理解出来るよう医療・福祉現場での話を取り入れながら講義した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>教科書の読み直し、予復習、インターネットでの調べ学習に取り組み「学びを深めたいと意欲を得ることができた」に自己評価していることは評価できると思います。「自分なりの目標を達成できた」「的確に判断する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」など自分なりの取り組みの姿勢を感じられた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

「到達度」において自分なりに到達できたとする評価が高かったこと、また、社会福祉の各分野について各自が必要を感じてくれたことが自由記述でもわかり納得できた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

テキストの内容がより理解出来るよう、より客観的に統計資料などを用いて説明したい。。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成されたと考える。次年度以降、毎回の理解を確認する方法を検討したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護学	3	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、栄養学科における専門教育科目の専門基礎分野「社会・環境と健康」に位置し、対象に応じた具体的な看護方法論の講義を受け、保健医療チームにおける専門職種間の連携の在り方や情報共有と継続的関わりについて学びを得る科目である。学生の受講動機をみると、「関心のある内容である」85.7%、「単位数を確保する」が28.6%で、関心のある内容であると回答する学生が多いことが分かる。</p> <p>②講義では、看護学がとらえやすように看護の歴史そして理論を解説し、さらに生活者としての人間のとらえ方を解説した後、各論領域全ての看護を学ぶ（受講）ことができる形としている。講義は具体的にイメージしやすいものとしている。</p> <p>③7名の教員がオムニバスで展開を行っており、それぞれが課題を提示して学生の理解を深めるように努めている。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目の登録者は7名であった。成績の平均値は、78点であった。判定では、A判定（90+）1名、B判定（80-89）3名、C判定（70-79）2名、E判定（59-）1名であった。1名の再試験者は、再試験にて履修している。</p> <p>②DP観点別の成績は、DP1-2（知識理解）は、得点率76%、DP2-1（思考判断）は、得点率73%、DP3-1（関心意欲）は、得点率80%、DP5-1（技能・表現）は、得点率86%であった。</p> <p>③学生の「到達度自己評価」の平均値は3.5（3.3-3.7）であった。「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることが出来た」とする項目のみ、少しそうでないとするものが1名見られたが、そのほかの学生は、すべての項目に対し、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた</p> <p>④授業の質評価の平均値は3.4で、全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。</p> <p>⑤学習量の評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、予習：57.1%、復習：57.1%であった。自由記述から、授業以外の課題以外に具体的に取り組んだ学習として、「復習した」「ノートを作成した」「分からないことを調べた」と自主的に学習する学生の存在が分かった。予習・復習時間が取れない理由としては、「他の課題が多かった」「時間がなかった」とする記述がみられた。</p> <p>⑥図書館の図書・雑誌利用率は、0%、学術データベース利用率0%、インターネット利用率57.1%であった。講義資料を振り返ること</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、専門基礎分野の社会環境と健康を学ぶ科目であり、人間存在のあらゆる面に影響し変化させる社会環境と人間との関わりを考える力、環境と健康との関わりを認識する力を得る一助となっていると考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果などから、科目内容は妥当であると考えます。</p> <p>③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えます。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では、全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」と回答しており、概ね説明は分かりやすく質問に対する対応もできていたと考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>目標については、概ね達成できたと考える。 学生の意見として、「栄養士としてではなく、看護の面からも学ぶことが出来て良かった」とする意見があり、次年度も各論領域における看護の実際が学べる機会を得ることができる講義内容として行きたい。 今回は、図書館の利用・インターネットによる文献検索・インターネットの利用が少なかったが、自身でも新たな情報を取り入れながらの学んでいけるよう、指導を行いたいと考える。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用生理学	1	後期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。</p> <p>②講義資料は、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。</p> <p>③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。</p> <p>④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を学生自身が確認できるよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①今年度の結果 本試験の合格者は73名中67名で再試験者は6名であり、再試験の結果1名が再履修となった。この1名は本試験にて5科目以上不合格となり本科目の再試験を受験しなかったためである。残りの5名は再試験を受験し合格した。最終成績の平均点は75.7±18点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）に到達していると考えられる。標準的なレベル（概ね70点以上）は49名と受講者の半数以上おり、そのうち理想的なレベル（概ね80点以上）が37名いた。来年度は、平均点が理想的なレベル（平均点が80点以上）になるよう、工夫したい。具体的には、講義資料を前もって予習してきてもらうなどを考えている。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」などについては、「少しそうでないと思う」以下が最大2割程度いることから、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。</p> <p>③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったため、課題を与えて図書館およびインターネット等の利用を促したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.7と、学生にとって満足度が低かったように思う。身近な生理現象や、病気を例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。講義で使用したスライドおよび資料は全てclassroom上にアップロードしており、いつでもどこでもカラーの資料をダウンロードできる環境を整えていたにもかかわらず、予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることのみならず、積極的に予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらおうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。</p> <p>配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	118

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して講義を進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。今年度の受験動機は、「必須科目である」98.8%、「資格取得に必要である」39.5%、次いで「単位数を確保する」21.0%であった。一方、「関心のある内容である」は、7.4%であった。生化学を意欲的な動機から受講する学生が少ないのは、例年通りであり、最初から予想されたことであった。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明してから、その後の講義を進めた。</p> <p>②毎年、キーワードやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布しているが、今年度もキーワード・キーワード集を大幅に改訂、増頁して配布あるいはClassroomに掲示した。講義の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。</p> <p>③講義に用いるスライドは、遠隔授業に適するよう大幅に改訂を加えて用いた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本年度の講義は遠隔で行った。本年度の定期試験は、遠隔にて出題し、期限内に遠隔にて提出させる方式を採用した。最終成績の平均点は80点、不合格者は再履修者を含めた受講者119名中5名(未受験者を含む)であった。不合格者はいずれも答案未提出であった。50名の学生は、予習・復習ともに0～2回しか行っていなかった。試験問題は、基礎的知識や基礎的な思考力を問う問題を併せて約9割、やや高度な知識や思考力を要する問題を併せて約1割の割合で作成した。基礎問題だけでも十分に合格点を達成できるような問題作成を心掛けた。本年度の試験問題は、とうあんもWeb上で採点する都合上、記述式の問題は出題しなかった。学生の受講態度は、比較的まじめであった。また、論理的に考えたり、理解しようとしたりする姿勢が例年より多く見られた。予習復習が少なくても、せめて受講の際、できるだけ理解した上で覚える姿勢を今後も促していきたい。今後は、すべての学生が、せめて講義中だけでも意欲的に学習に取り組むことを促して、全員合格を目指したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPでの位置づけは専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。内容的には妥当と考えて講義を行ってきたが、平均点、合格点共に本年の結果は、あまり参考にならないと考える。講義中に質問や練習問題などを行い、理解度を確保することに努めた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して講義を進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。生化学を意欲的な動機から受講する学生がほばいない事実は、例年通りであり、最初から予想されたことであった。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明した。

②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布しているが、今年度はキーワード・キーポイント集を大幅に改訂、増頁して配布あるいはClassroomに掲示した。講義の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。

③講義に用いるスライドは、前年のものを見直した上で、大幅に改訂を加えて用いた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度は、合格率、平均点とも例年を大きく上回ったが、講義、試験ともに遠隔で行ったので参考にはならないと考える。本年度の学生の受講態度自体は、1年生、再履修者ともに全体としては、特に問題はなかった。受講意欲の向上を促す工夫が必要である。講義中または講義後に質問や発言をする学生も例年よりは多かった。これは講義終了後にMeetをとおして質問がしやすかったことに起因するかもしれない。学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を出来るだけ多く得て、それらを講義にフィードバックしていくために、学生が発言、質問する機会を増やしていく工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
病理基礎医学	1	後期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、1年生であり、疾病に対しての具体的な知識や興味はまだ持ち得ていないと考えられる。病理学は病気の原因や病態を理解する上で基本となる学問であり、疾病に共通する医学用語や概念についてまず理解していくことを目標とした。その上で2年生で学ぶ「疾病診断治療学」へとつなぐために、疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいて授業を進めた。</p> <p>②今期は対面授業で始まったものの約1か月で遠隔授業に変更となったため、授業で使用するスライド資料を事前に郵送した。</p> <p>③遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、文字も大きめにした。また聞き取りやすいようにはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。</p> <p>④学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるように、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。</p> <p>⑤毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>定期試験を遠隔により実施したため、教科書や資料を利用しながら回答する方法をとり、正答が複数ある設問を作成することで理解度を確認した。本試験の成績の平均値は 67.0(±7.6)点であり、再試験対象者は6名であったが、その全員が再試験にて合格した。再試験時の成績の平均値は 89.2(±13.0)点であり、全員が概ね標準的なレベル以上に達したと考える。昨年度の本試験成績の平均値 82.1(±12.6)点と比較すると低下しているが、今年度は遠隔試験に伴い試験形式を大きく変更したことが影響したと思われる。遠隔試験における問題量や難易度をどのように設定し思考判断を問うていくかは、今後の検討課題である。授業の出席率はほぼ100%であったが授業に臨む姿勢を確認できないため、指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。遠隔による授業や試験によって理解度を正しく評価することは難しいが、学生の授業評価アンケートでは、新たな知識の修得・課題検討力・判断力・学びへの意欲において特に学習到達度の自己評価が高く(4.1～4.3点)、前年度(3.7～3.8点)と比較すると、遠隔授業においても非常に積極的に学習に取り組み学びを深めたことが伺えた。これらのことから、双方向性の授業参加を促す工夫を改善するなどの検討課題はあるものの、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、95%の学生が自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。全員が、事象を理解する視点や考え方を得ることができたと肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考えます。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価および到達度自己評価は、概ね肯定的であったが、授業の中で発表する機会が少なかったと感じる学生がいるため、今後は質問応答形式を増やすなど関心を高める機会を増やしていきたい。また授業の課題以外に自発的に学習に取り組んだと答えた学生は73%にのぼっていたが、一方で自由記述からは、他授業の課題が多く忙しかったために時間的余裕がなかったと答えた学生が多く見受けられた。遠隔授業が始まったことでレポート提出を課す授業は全国的に増えており、学生の負担が過重になっている状況がある。本学においても学生の授業外学習時間が増えていることを考慮し、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させる時間を作るようにした。今後は次回の授業内容を事前に提示確認し、授業に対する準備・モチベーションを高めることを心がけていきたい。なお遠隔授業下ではインターネットを利用した調べ学習が不可欠になるため、積極的に利用して学びを深めるよう促すとともに、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶ方法についても指導していきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は専門基礎科目であり、基礎的な医学知識の修得については、成績評価および学習到達度の自己評価において概ね達成できたと考える。2年生で学ぶ「疾病診断治療学」につながる科目としての知識を得ることができるよう授業計画を練ったが、基礎的な内容であるがゆえに実際の臨床と結び付けて考えることが難しかったのではないかと推察する。学生が理解できていない事項を早めに認識して対処するために、前年度より行ってきた毎回の授業終了時の確認テストに加えて、今年度は授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだ。遠隔授業により授業外学習時間が増えている中でも、一定数の学生は予習・復習をして積極的に自己学習に取り組んでおり、またほぼ全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。今後は、授業内容を整理することで質問応答形式の機会を増やすための時間を作るなど、さらに学生の意欲関心を高め、興味を持って自己学習に取り組むような方策を検討していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①前期で学んだ疾病診断治療学Ⅰを基に、管理栄養士として必要な臨床医学の知識および考え方を定着させることを目標とした。チーム医療を担う一員としての医療の現場を想定して、検査機器や疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、医学と食物・栄養との関連についてのイメージを持ちやすくすることに努めた。特に医学および栄養学知識を持つことがいかに大切であるかを身近な問題としてとらえてもらうために、実際に起こった社会問題やニュースなどの事例を紹介し、その原因や予防・改善するための方策について提示するなど、学生の関心を引きつけやすいように工夫した。</p> <p>②今期は対面授業で始まったものの約1か月で遠隔授業に変更となったため、授業で使用するスライド資料を事前に郵送した。</p> <p>③遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、文字も大きめにした。また聞き取りやすいようにはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。</p> <p>④改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。</p> <p>⑤学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるのと同時に、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。</p> <p>⑥毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>定期試験を遠隔により実施したため、教科書や資料を利用しながら回答する方法をとり、正答が複数ある設問や症例読解問題を作成することで理解度を確認した。本試験の成績の平均値は 66.1(±8.0)点であり、再試験対象者は6名であったが、その全員が再試験にて合格した。再試験時の成績の平均値は 90.8(±1.9)点であり、全員が概ね標準的なレベル以上に達したと考える。昨年度の本試験成績の平均値 78.3(±9.1)点と比較すると低下しているが、今年度は遠隔試験に伴い試験形式を大きく変更したことが影響したと思われる。遠隔試験における問題量や難易度をどのように設定し思考判断を問うていくかは、今後の検討課題である。授業の出席率はほぼ100%であったが授業に臨む姿勢を確認できないため、指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。遠隔による授業や試験によって理解度を正しく評価することは難しいが、学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価において全員が「自分なりの目標を達成した」と回答していた。新たな知識の修得・事象を理解する考え方の獲得・課題検討力において特に自己評価が高く（3.8～3.9点）、前年度（3.6～3.7点）と比較すると、遠隔授業においても対面授業に劣らず教育効果を得ることは可能であったと考える。これらのことから、双方向性の授業参加を促す工夫や、個々の理解度に応じてサポートする工夫を検討するなどの課題はあるものの、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、全員が自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。ほぼ全員が、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業選択の参考になった」と肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価および到達度自己評価は肯定的であり、授業は概ね理解しやすいものであったと考える。しかし授業の中で発表する機会が少なかったと感じる学生がいるため、授業時間が限られてはいるが、今後は質問応答形式を増やすなど関心を高める機会を増やすよう工夫したい。また授業の課題以外に自発的に学習に取り組んだと答えた学生は半数にとどまっており、自由記述からは、他授業の課題が多く忙しかったために時間的余裕がなかったと答えた学生が多く見受けられた。遠隔授業が始まったことでレポート提出を課す授業は全国的に増えており、学生の負担が過重になっている状況がある。本学においても学生の授業外学習時間が増えていることを考慮し、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させる時間を作るようにした。今後は次回の授業内容を事前に提示確認し、授業に対する準備・モチベーションを高めることを心がけていきたい。なおインターネットの利用については、今年度は30%の学生が利用したと答えており（前年度 0.04%）、遠隔授業下ではインターネットを利用した調べ学習が不可欠になるため、積極的に利用して学びを深めるよう促すとともに、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶ方法についても指導していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は専門基礎科目であり、管理栄養士に求められる医学的知識の修得については、成績評価および学習到達度の自己評価より概ね達成できたと考える。今後は3年前期の「臨床基礎医学実習」へとつなげていき、実践的な知識の定着を図る予定である。修得すべき医学的知識は、生物学・化学など質・量ともに多岐にわたっているため、学生によっては消化不良であったと推察する。学生が理解できていない事項を早めに認識して対処するために、前年度より行ってきた毎回の授業終了時の確認テストに加えて、今年度は授業の初めにも前授業の復習を組み込んだ。遠隔授業により授業外学習時間が増えている中でも、一定数の学生は予習・復習や課題以外の学習に積極的に取り組んでおり、またほぼ全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。今後は、授業内容を整理することで質問応答形式の機会を増やしたり、事例を取り上げて検討したりするための時間を作るなど、さらに学生の意欲関心を高め、興味を持って自己学習に取り組むような方策を検討していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	長藤 信哉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、必須科目であり、管理栄養士国家試験に直結する内容である。</p> <p>②化学的な知識を要求されるため、難しい内容になりがちだが、身近な話題を取り入れて興味を喚起するように心がけた。</p> <p>③途中からオンライン授業での開催となったため、板書の部分をスライドにするなど工夫を取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①急遽担当させていただくことになり、準備不足が懸念されたが、授業評価アンケートや成績を勘案すると、概ね達成できたと思われる。クラスルームを用いてアンケートをとることで、化学の基礎知識が不足していることを把握できたため、高校化学が苦手な学生に合わせて授業を行うことができ、アンケートでも分かりやすいという評価を得ることができた。</p> <p>②評価結果 定期試験がオンラインとなったため、レポート課題も追加で行ったが、概ね優れた成績であった。 平均点が87.1点、秀31名、優29名、良9名、可2名、不可1名であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は必須科目となっており、管理栄養士国家試験に直結する内容であるため、もともと学生の皆様の学習意欲が高い状態であった。内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価より知識理解について十分満足できる結果が得られたが、オンライン授業で受講中の授業態度が確認しにくいのが今回の反省点である。なお、ほとんどの学生がレポートや試験にて優秀な成績を修めているため、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に、他の課題で忙しかった等を書いている学生が多数見受けられたことにより、オンラインになった影響で学生側への負担が大きくなってしまったことが伺える。</p> <p>②他の科目の課題状況も把握して、余裕を持った課題の期限を設けることにより、学生の負担を減らしていく必要があると思われる。</p> <p>③授業の課題以外に学習に具体的に取り組んだ学習に、復習が多く見られたことにより、復習だけでなく予習についての案内が必要だと思った。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①本科目の管理栄養士国家試験内容における基礎的知識の形成については概ね達成できたが、オンライン授業のため学生側の反応の把握が難しく、オンライン講義の難しさを感じた。</p> <p>②高校化学レベルの化学的な知識に到達してない学生も見受けられるため、予習や復習にてフォローできる体制が必要と考えられる。</p> <p>③授業評価アンケートでは、内容が面白く分かりやすいという評価を多くいただいたことに慢心せず、次年度も、さらに授業内容に工夫を行い、学生の皆様の興味を喚起できるよう取り組んでいきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
加工食品機能論	2	後期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、アカデミックな授業を目指す上では決して好ましい状況ではない。授業を通じて、できるだけ受講生の学術的興味と関心を惹きつけるように務めた。</p> <p>②この分野における国家試験の動向が変化してきたため、プリントを中心に置いて不足分を教科書で補うという形式で授業を進めた。プリントを中心に置くことで、教科書に掲載されていないホットな分野の理解度が明らかに上がった。</p> <p>③記憶する要点を明確に示して学習の便宜を図った。</p> <p>④管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行った。</p> <p>⑤授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に大きな悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、鉛と鞭の匙加減が非常に難しい科目であるが、今期はその調整が大変うまく行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①受講生数 休学者1名があり69名が受講した。</p> <p>②今年度の合否結果（昨年度・一昨年度との比較考察を含めて） 本試験合格者は受講者全員（69名）であった。昨年の本試験合格者は68名（82%）であり、一昨年が56名（67%）であったことと比較すれば、かなり良い結果であった。その好成績の理由は、講義内容が変わったこともあると思われるが、大きな要因はコロナ禍で遠隔授業が行われたことが大きいと思われる。教室での受講と違って、遠隔での講義は、受講生にとって受講生易い環境となっているようである。</p> <p>③成績について 本試の平均点は72.4点（昨年は75.4点、一昨年は65.0点）、標準偏差は9.21（昨年は19.3、一昨年は23.9）であった。秀は3名/4.3%（昨年は19名/22.9%、一昨年は9名/10.1%）、優は11名/15.9%（昨年は25名/30.1%、一昨年は20.2%）、良は30名/43.5%（昨年は19名/22.9%、一昨年は19.1%）、可は25名/36.2%（昨年は5名6.0%、一昨年は19.1%）、不可はゼロ（昨年は15名/18.1%、一昨年は31.5%）であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に伝えるように工夫し（就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える）、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①例年、「話すスピードが早い」との評価が多く、十分に注意して「ゆっくり明確に話すよう」心がけた。</p> <p>②遠隔授業では、受講生の集中力を維持するためには、対面授業よりも頻繁に短い休憩を要れる必要があることを痛感した。</p> <p>③授業内容がかなり変わったため、それぞれの項目にかける時間配分がうまく調整できず、翌週に持ち越すことが度々起こった。受講生の、より良い理解を得るためには、毎回の授業で内容を完結することが望ましいので、次年度はそのようになるよう鋭意努力したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①基礎科目のなかでも「食品学」や「調理学」をベースにした応用に近い本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。</p> <p>②授業で取り上げる「加工食品」の種類についてももう少し幅を広げる時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の補講で対処したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、アカデミックな授業を目指す上では好ましい状態ではない。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を惹きつけるように務めた。</p> <p>②教科書を全面改訂したので、今年度は、昨年度までと違って教科書中心で授業を進めた。1つの教材に絞って授業を行うことで、受講生の理解を深め、記憶する要点を明確に示すことで覚えるべき箇所がはっきりとし、定期試験の勉強がやりやすかったようであった。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。また、授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、鉛と鞭の匙加減が難しい科目であるが、今年度は大変うまく行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講生数は、休学者1名、出席不足1名であり、57名であった。</p> <p>②今年度の合否結果（昨年度・一昨年度との比較考察を含めて） 57名全員が本試験で合格した。本試験合格者は昨年は71名/82%、一昨年は49名/67%であったことから考えると、今年度の成績は大変優秀であった。少人数クラスであったこと、それと、遠隔授業によって学生の受講環境が「理解」のためには適していたと考えられる。</p> <p>②成績について 本試の平均点は72.1点（昨年は74.4点、一昨年は60.0点）、標準偏差は10.4（昨年は29.6、一昨年は20.4）であった。秀は4名/7.0%（昨年は12名/13.8%、一昨年は1名/1.2%）、優は9名/15.8%（昨年は20名/23.0%、一昨年は14.8%）、良は21名/36.8%（昨年は21名/24.1%、一昨年は30.9%）、可は23名/40.4%（昨年は18名/20.7%、一昨年は13.6%）、不可はゼロ（昨年は16名/18.4%、一昨年は39.5%）であった。</p> <p>③考察 今年度の成績は大変良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に出来るように工夫し（就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える）、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教科書中心の授業は、学生にとって大変分かりやすかったようである。次年度も、同じような形式で授業を進めたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。

②「食中毒」と「食品添加物」についてももう少し理解を深めさせるための時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の補講で対処したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は食品の鑑別論というテーマで栄養学科の学生にとって必要とされる食品に関する幅広い専門的分野を取り扱っていることから、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説を行うことで、わかりやすい授業運営に心がけながら授業準備を行った。今年度は前期は全て遠隔授業、後期は一部を対面で実施したが、ほとんどが遠隔授業となったが、遠隔授業の際には課題レポートのなかで適宜、講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者は46名で、途中で休学などで3名の離脱者があったが、40名（87%）がA評価であった。またB評価も3名（7%）であった。2019年度はA評価の割合が82%であったことから、2020年度における教育の質はかなり高いものになったと考えている。またDPの全ての項目について、平均値が3.6～3.9であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は栄養学科の専門科目としての位置づけとなる。全ての受講生が「自分なりの目標を達成した」という設問に対して、回答者全員が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。また食品の鑑別に係る様々な事象を理解する視点や考え方を得ることができたと答えた受講生についても平均値が3.8であり、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説してきた成果が表れているものと解釈している。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価については平均値が3.5~4.0となった。昨年度の評価が4.0~4.2であったことから、この部分は大幅に減少していた。これはオンライン形式での講義の影響と考えており、特に低かった3.5は「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目であった。オンラインでこのような機会をつくることは難しいかも知れないが、次年度、工夫が必要と感じた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を十分に達成していると思われる。自由記入欄で「忙しかった」という意見が例年になく多い印象をもった。オンライン授業の大きな問題点は課題が過剰になることにあり、この科目の課題量は多くならないように配慮はしていたのだが、次年度はこの点についても配慮が必要と考える。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品流通・消費論	2	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は「フードスペシャリスト」の受験資格を得るために必須とされている科目であり、受講動機「関心のある内容である」は数%にとどまり、専門選択科目としては好ましい状態ではない。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を惹きつけるように務めた。</p> <p>②今期、初めて担当したが、教科書を中心にスライドを活用して授業を進めた。授業の最後に、理解度を試すための課題を提出させたところ、これが大変大きな効果を発揮し、受講生の理解を深めることに役立った。</p> <p>③教科書はフードスペシャリスト協会から指定されたものであり、記載されている統計データが古かったので、適宜、その他の文献等からデータを引用して授業を行った。その点が、学生の理解をやや妨げたように感じられた。フードスペシャリスト協会に教科書の大幅改定に関する要望書を提出したところ、「次年度に間に合うよう対応したい」との返事を得たので、期待したい。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者数は、休学者1名があったため40名であった。</p> <p>②ある意味、管理栄養士必須科目よりも受講態度がよく、熱心な受講態度が見られ好感が持たれた。</p> <p>③毎回の課題にも、ほぼ全員が丁寧に回答していた。</p> <p>④筆記試験の成績は、平均点が99.1%、標準偏差は33.9、秀31名/77.5%、優4名/10.0%、良3名/7.5%、可1名/2.5%と、優秀な成績であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門選択科目」であり、フードスペシャリスト試験に必須の科目である。そのため、受講生は仕方なく受講する側面があり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に答えるように工夫し（就職後どう結び付くかの解説を必要に応じて加えるなど）、学生が極めて優秀な成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」について十分満足いける結果が得られたので、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>次年度は、フードスペシャリスト協会からの話しでは、教科書に掲載されている統計データが刷新されると思われるので、スライドを新たなデータで作直して、より最新のデータに基づいて分かりやすい講義を目指したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>今年度の結果に関しては、特に課題は見当たらない。よりよい講義を目指して努力したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
解剖生理学実習	1	後期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①正常な生命活動の仕組みについての理解を深めるため、解剖生理学の講義の復習を促して生命維持に不可欠な諸器官の構造と機能について、身体活動などと組み合わせる可能な限り身近な題材を用いて実習を行うようにした。</p> <p>②実習レポートは実習終了後一週間以内に提出をさせ、提出後1週間以内にコメントを付して返却した。実習内容を忘れないうちにまとめることと、早い段階でのレポート返却により、学生がコメントを確認することで復習の機会が自然とできることを意図した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価にて「コミュニケーション力や表現を高めることができた」について「少しそうでないと思う」以下の回答が10%あったが、そのほかの項目に関して「まあまあそうだと思う」という肯定的な意見が95%以上を占めている。</p> <p>加えて、レポートは総じて大変良くできており、積極的に取り組んだ跡がうかがえた。</p> <p>図書館等の利用が非常に少ないが、実習時間中にスマートフォンなどを用いてインターネットを利用した情報検索を許可しているため、このような結果になったと思われる。</p> <p>以上のことから、この科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的にかかわったことがうかがわれる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「専門基礎分野」になり、必修科目である。実習で行った内容は解剖生理学の講義で学習したメカニズムを実際の自分たちの体で体験するという知識定着の役割も担っている。そのため、管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。また、学生の成績も非常に良かったことから内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容妥当性 「到達度自己評価」及び、実習の成績からみても学生は進んで熱心に取り組んでいたと評価したことから、目標をほぼ達成でき、内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価においてすべての項目において「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が90%以上を占めているので、概ね学生が肯定的な判断を下しており問題はなかったと判断できる。座学の解剖生理学が前期で終わった段階でこの実習を行っているが、前期の座学の復習という形で知識の定着ができたと考えている。</p> <p>図書館にて本で調べることがほとんどできていないことについても、実習中にインターネットを活用して調べることを行っているため、大きな問題はないと考えている。まずは教科書を読むことを習慣づけることから注意を促していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考ええる。</p> <p>この科目は①人体を構成する主な骨と筋肉の名称を覚えること、②泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになること、③実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につけることを目標に行ってきた。最終的な到達目標は、①～③を初学者に説明できるようになるという点に置いた。学生による授業評価とレポートの採点結果、また小テストの結果から見て、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。</p> <p>今後の課題としては、インターネットを用いて調べる際に、正しい情報を選び取る力を身につけてもらえるような工夫をしていきたいと考えている。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	長藤 信哉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学実験	1	後期	必修	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、必須科目であり、管理栄養士国家試験に直結する内容である。</p> <p>②化学実験を行うに当たり、基礎的な化学知識を要求される。また、実験器具の使い方は特に丁寧に説明を行い、事故の防止に努めた。</p> <p>③途中からオンライン授業での開催となったため、実験内容を動画にて撮影し、班単位で議論の場を作成するなど工夫を取り入れた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①急遽担当させていただくことになり、準備不足が懸念されたが、授業評価アンケートや成績を勘案すると、概ね達成できたと思われる。途中からオンラインに切り替わったため、実際の器具を用いた操作などは出来なくなったが、できるだけ、実験操作の意味や出てきたデータの取り扱いなどを分かりやすく解説することにより、理解の向上につながったと思われる。</p> <p>②評価結果 成績は、平均点が86点、秀28名、優35名、良6名、可2名であり、優れた結果となった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は必須科目となっており、初めての本格的な化学実験となったため、学生の皆様の学習意欲が高い状態であった。内容的には妥当であったと考える。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

成績評価より知識理解について十分満足できる結果が得られたが、途中からオンライン授業で実際の器具を用いた実験ができなくなった。その分、班単位でmeetの部屋を作り、活発な議論を喚起することで、学生の興味や理解力も向上し、優秀な成績を修めているため、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に、時間が無く他の課題で精一杯であると答えている学生が多数見受けられた。学生側の余裕がなく、こちらの指示されたこと以外には手を出す余裕がなかったと思われる。

②そのため今後は、他の科目の課題状況も把握して、余裕を持った課題の期限を設けることにより、学生の負担を減らしていく必要があると思われる。

③授業の課題以外に学習に具体的に取り組んだ学習に、復習や練習問題を解いたと答えている学生も見受けられたが、今後も、具体的にどのようなことをすればいいかの指示していきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①本科目の管理栄養士国家試験内容における基礎的知識の形成については概ね達成できたが、オンライン授業のため実際の器具を用いた実験が途中から行えなくなり、学生の満足度の低下が懸念された。

②授業評価アンケートでは、オンラインになり実験ができなかったのは残念だが、班meetで班の皆と議論することができ良かったとの声が多く、学生の満足度は維持できたと思う。

③今後の課題は、予習に取り組む学生が少ないようなので、どのようにして予習を行うかの具体的な指示を行いたいと思う。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康情報処理実習	2	後期	選択	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年次後期管理栄養士必修の実習科目で履修生は52名である。受講動機は必須科目である96%、資格取得に必要である24%であった。</p> <p>授業の実施にあたり大切にすることは、卒業後の利活用を想定し、卒業にも役立つテキスト（化学同人の「わかる統計学 健康・栄養を学ぶために」松村康弘・浅川雅美著）を選定し、データを入力することで推測統計が可能となるExcel教材を準備し、栄養調査・分析に必要な統計処理の課題を設定したことである。</p> <p>2017年度より、学生の学力に合わせ、また2年後期開講の時間割上、授業外で予習・復習する時間のない状況が続くため、推測統計の割合を減らし、記述統計の割合を多くし、テキストの例題を時間をかけて行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価割合は次の通りである。</p> <p>授業評価の到達度自己評価は以下の通りである。4または5と評価した学生が、1または2と評価した学生より多くなっている。</p> <p>1&amp;2 4&amp;5 <input checked="" type="checkbox"/> 22% 18% (1)自分なりの目標を達成した 18% 42% (2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた 18% 50%</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>上記到達度自己評価の結果より、DPにおいて内容的に妥当と考える。 加えて本科目は専門教育分野に属し、CPは、「臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を習得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける『臨地実習』を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う」となっており、本授業の内容は妥当であると考えている。 一方、本科目のシラバスに記載の行動目標4項目について学生の自己評価では、「できる」、「メモやテキストを調べればできる」、「全くできない」の3段階評価で「全くできない」と回答した学生の割合は以下の通りであった。なお、（ ）内の数値は2019年度の値である。</p> <p>0% (5%) (1) アンケート調査の一連の流れを説明できる</p> <p>11% (9%) (2) データの種類について説明できる</p> <p>22% (25%) (3) 仮説検定について説明できる</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>自由記述で「説明が早すぎて理解できない」と記載したものが7名、成績評価でE評価の学生は11名であり、本試験の中には割合を使った濃度計算の応用問題が含まれ、問題文から数式を導く能力の段階で躓いていると考えられる。改善策として、基礎的な数学および記述統計学について学生の能力に合わせて教える授業を1年次前期に開講することが考えられる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>以上の分析結果よりおおむね目標は達成したと考える。 しかしながら、前述したように（2）の成績評価および到達度自己評価の割合から、理解度の高い学生とそうでない学生の格差が広がっている。 近年の管理栄養士国家試験問題において、記述統計の知識を問う問題や、問題文から数式を立てる問題が出題されるようになってきたこと、また医療福祉分野においても人工知能が利用されるようになり、人工知能で使われる手法の基本は統計学であることも踏まえて、1年次に記述統計学を学ぶ科目の開講が課題だと考える。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用調理学実習	1	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは学生自身が調理操作を行い、実践力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため学生が自ら、多種のメニューを作れるよう師範を短縮し、講義内容はテキストでの説明とポイントに絞り、自ら考え作ることができるように促した。</p> <p>②応用調理学ではあるが、1年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという科学的根拠を知る機会がない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取り入れた。</p> <p>③1年前期との違いは、担当した献立のみを作成するのではなく、作業工程全体の流れを把握し全部の献立が作れるよう指示・指導に努めた。</p> <p>④事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めに提出させた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>成績平均値は85.1±6.8点と標準レベルであった。この実習は実習後のレポート得点を加味するため、レポートの内容により、評価が左右された。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは71名中68名であった（このうち1名は不可。再試も受けず進路変更により退学）。到達度自己評価の平均値と中央値を見ると、「自分なりの目標に達した」が4.1、4.0点、「知識を得た」が4.3、5.0点、「課題を検討する力を得た」が4.4、5.0点、「的確に判断する力を得た」は4.3、5.0点、「学びを深める意欲」4.4、5.0点、「技術を身につけた」が4.5、5.0点であった。授業の質の評価では、「説明は理解しやすいものだった」が4.0、4.0点との評価であった。以上のことより、1年前期の基礎調理から一貫して調理技術の習得に力を入れた結果、調理技術が向上し、自信となり、今後の学習意欲につながったことと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年前期の基礎調理学実習と1年後期の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であるとする。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年前期の基礎調理学実習と1年後期の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であるとする。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。</p> <p>①初回は1年次の基礎調理学実習の復習を踏まえた実習内容にする、②毎週実習後の感想をレポートに記載してもらい、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。</p> <p>学生のレベルに応じた個別の対応により、技術指導や学習指導を心がけ、学習意欲を高めることが重要であると感じられた。また、1年時の基礎専門科目であるため、できないのでなくできるように指導し、成功体験を得ることで留年や退学を招かないよう、未然に防止することを努めていきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機に対する回答で、すべての学生が「必修科目である」ことを理解しているが、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのは50.8%であり、また、「関心のある内容である」と答えたものは21.5%であった。昨年に比べれば上記3項目のパーセントは上がってはいるものの、まだ、十分とは言えない。栄養学の基礎的知識が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも活用できる重要事項であることを毎年、授業の中で繰り返し伝えていくが、なかなか浸透しない。基礎栄養を実践の場でどのように活かすかできるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。</p> <p>②今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、すべての授業をオンラインで実施したが、学生の反応が分かるように、また、授業を身近に感じるように、その日の授業に関連する練習問題をなるべく多くの学生にあて、マイクをONにして答えさせるようにした。授業評価アンケートによれば、質問の仕方を威圧的に感じた学生もいたようであるので、その点は注意したい。</p> <p>③授業で使用するパワーポイントの資料は、常に修正し、よりわかりやすい内容となるように改善している。</p> <p>④授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値(100点満点)は、Aクラス88.6点(±5.5)、Bクラス86.0点(±15.6)、A・Bクラス合同で87.3点(±11.6)であった。90点以上がAクラス44%、Bクラス50%、80点～89点がAクラス47%、Bクラス38%、70点～79点がAクラス8%、Bクラス9%であった。今年度の期末試験は、問題形式の課題をオンラインで送信し、それに自宅で回答を入力して、期限までに返信する形で実施したので、結果的に「資料・教科書持ち込み可の試験」と同じやり方になったこともあり、昨年に比べてA・Bクラスともかなり好成績であった（A・Bクラス平均点：昨年72.5→今年87.3）。また、今年は授業の終わりになるべく多くの学生に練習問題を解かせるようにしていたことも、今年の好成績に影響しているかもしれない。本試験は、1名の試験放棄を除いて全員が合格した(昨年度はA、Bクラス全体で本試験不合格者2名、再試験全員合格)。</p> <p>授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、項目(2)の「知識の確認・習得」、(4)「専門分野の課題を検討する力の習得」、(5)「専門分野の的確な判断力の習得」および(6)の「専門分野について学ぶ意欲」については、4.2点～4.1点と昨年(3.7～3.8)より高い評価であった。また、その他の項目もすべて昨年より高い評価であったことから教育目標を達成できていると考えている。。例年得点の低い項目(8)「コミュニケーション力・表現力」については、授業中に質問し口頭で答えさせることがこの力をつける方法の一つと思われるが(このやり方は対面よりむしろオンラインの方が実施しやすかった)、学生の評価はかならずしも高くなかった(昨年3.1→今年3.2)。「学習量の評</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、卒業必修及び管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えているが、「3. 授業準備について」でも述べたように、資格取得に必要であると答えた学生や、この科目に関心がある学生が必ずしも多くない点は、今後の課題である。ただ、期末試験の成績において良好な成績を修めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績は例年通りおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」において、すべての項目で今年の平均値は昨年より増加していた(昨年3.0~3.6→今年3.6~4.3)。特に、項目(1)の「明解な評価基準」、項目(2)の「明確な学習の範囲と課題」、項目(5)の「学生からの質問の受付とそれに対する回答」は、昨年より高得点(3.6→4.3、3.5→4.3、3.3→4.0)であった。例年平均値が低い項目(4)「授業中の学生の参加・発表」と項目(5)「学生からの質問の受付とそれに対する回答」については、今年度は授業の最後に練習問題を出して学生に答えさせる時間を多くとれたことで平均値の増加につながったものと思われる。項目(3)の「説明の理解しやすさ」が、昨年より0.6上がっていたが(3.4→4.0)、自由記述にはまだ早口であることが指摘されているので、この点を改善し、より分かりやすい説明を心掛けたい。以上、昨年に比べるとある程度高い評価を得ることができたこと、また、学生の成績も良好であったことから、授業の目標はおおむね達成できたのではないと思われる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎栄養学の基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践の場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学概説	1	後期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①栄養学概説は、栄養学科1年次に2018年度から新規開講された科目であり、2年次からの専門基礎および専門科目を学ぶ前の導入教育の意味も含む卒業および管理栄養士受験資格必修の科目である。よって受講動機は「必修科目である」が98.5%であることは当然の回答である。今年度は各担当教員が、分野毎に確認試験を分けて行うなどの改善を図り、さらに講義内容の見直しも図りつつ、この科目を2年次から学ぶ専門基礎および専門科目へ繋ぐことが出来るように、学生の学修レベルにも配慮しながら、学生に関心をもって講義に臨んでもらうことが出来るようにした。学生からもこの科目を学んだことで「知識を確認、修正、新たに得ることが出来た」と多くの学生たち(76%)が評価しており、今後に修得していく科目へ学びを繋ぐことへ貢献できたものと考えている。</p> <p>②栄養学概説は、「日本食品標準成分表」に関する講義と、「日本人の食事摂取基準」に関する講義の二本立ての科目である。2人の教員によるオムニバス講義であるが、2教員ともスライド資料を配付し、その資料には、ポイントが理解できるようにする、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。さらに教員は食品成分表や食事摂取基準などの講習会に参加し、最新の情報を学生たちに提供できるように努力している。食品成分表の担当教員は実務家教員でもあるため、基本の講義は勿論のこと、より実務に即した講義を展開している。「食事摂取基準」の講義では、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラス73名の受講生中、A(秀)が3名(4.1%)で、B(優)が24.7%であり、C(良)が26.0%であった、D(可)も31.5%と高く、不可の学生が13.7%であった。受講生の約80%が標準的レベルに至っており、講義内容や試験方法はこのままで実施していく。また学習到達度の自己評価においては、講義への関心の高さがうかがえ、この科目を「的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいという意欲を持つことができた」との回答が多かった。これらの評価結果から今年度のこの科目のDPの達成は「やや達成された」と回答する。学習量の評価では、約39%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学習時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テストを実施し、この返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。後期は途中から遠隔講義に切り替わったため、図書館の利用は出来なかった。2021年度は特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の中の応用栄養学の項目の1つに位置している。また、2年次からの専門基礎および専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が98%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度からは、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、約39%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は62%と今年度は高かった。講義初回時にシラバスの説明をしており、このシラバスを参考にしながら、講義を受講できたものと思われる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す予定である。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、2年次の専門基礎および専門科目へのつなぎにあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価から、概ね全てのDPを達成できたものとする。今後も学生の学修レベルの把握を行いながら講義を展開していくことを考える。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。授業評価では、担当教員に対し、講義がわかりやすかったと良い評価を得ることも出来た。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が98%は当然の回答であり、「資格取得に必要である」が35.3%、「関心のある内容である」が9.8%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ（2年後期）の講義を学生の関心を引き付けるような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある、これは毎年度の課題であるが、難しいのも現実である。</p> <p>②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。2020年度は6回目以降オンラインによる講義に変更にはなったが、オンラインでも、毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説するようにした。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力しているが、オンラインになってからは、質問は殆どなくなった。しかし、小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。定期試験はオンラインにて実施した。試験結果は51名の受講生中、A(秀)がわずか2%、B(優)が18%、C(良)43%と良が一番多かった、D(可)が23.5%で、不可の学生は6名(12%)であった。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みにて評価をおこなった。受講生多くが標準的レベルに達してはいるが、理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達している学生は2%とかなり低かった。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、優の学生も18%とまあまあ居たため、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さのほうがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、39%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後はもっと予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。2020年度はコロナ禍で図書館の利用は殆ど出来なかったが、今後は特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が98%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、39%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は53%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の33%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。初回にシラバスを印刷したものを配布しているので、これに講義前には目を通すことを促したい。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。3年前期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養	3	後期	選択	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>人間は動くもの（動物）の一員である。摂取された栄養素は我々が身体を使うとき、体内で様々な代謝され、その活動を物質的に支える。しかしながら、今日のように日常生活様式が機械化され、情報化されて便利になってくると、日常の身体活動が低下し、本来そのために使われるべき栄養素と遺伝的に備わっている代謝機能が十分に活用されず、体内での栄養素の代謝が不活発となる。一方、「飽食時代」と言われるように、「食」に関しては、好きなものを、いつでも、いくらでも食べることができる。このような身体活動や食における生活習慣の変容が、今日の生活習慣病の増加をもたらす大きな要因となっている。</p> <p>本講では、身体活動(運動)時や環境変化・ストレスに対応して、体内で起きている栄養代謝の概要とそのメカニズムを学び、身体活動、環境変化、ストレスに対して、栄養の面から適切に対応することが、疾病の予防や健康の維持・増進にいかにか重要であるかを学ぶ。</p> <p>6回以降は遠隔にて講義を行う。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動がなぜ疾病の予防や健康の維持・増進さらに疾病治療に有効なのかを理解できる。</li> <li>・運動不足病とは何か、またその実態とそれらを生み出す社会的・経済的・生き方的背景について理解できる。</li> <li>・環境変化が栄養代謝にどのように影響しているかを理解できる。</li> <li>・運動時や環境の変化に対応し、健康を維持・増進するための栄養について理解できる。</li> </ul>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本講では、身体活動(運動)時や環境変化・ストレスに対応して、体内で起きている栄養代謝の概要とそのメカニズムを学び、身体活動、環境変化、ストレスに対して、栄養の面から適切に対応することが、疾病の予防や健康の維持・増進にいかにより重要であるかを学ぶ。</p> <p>6回以降は遠隔にて講義を行う。</p> <p>受講動機は90%が必須科目という事で受講している。そのほかにしかくに必要であるが40%である。</p> <p>残円なのは関心があるが6.2と低く、栄養学科の学生が応用栄養の必要性に理解ができていないと感じる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>3人の教員で進めている。それぞれの評価基準があるが、平均的に70%の理解度を目標にそれぞれの教員で、授業改善をおこなっている。</p> <p>授業の質の評価は3.5~3.7であった。</p> <p>半数の学生は予襲復讐をしている。</p> <p>情報の利用も半数には満たないけれども活動をしている。</p> <p>遠隔ゆえに図書館の利用は少ない。</p> <p>改善の余地がある。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学習は意欲があることが、成就するポイントである。基礎力を応用するこの科目に興味を持つように動機づけに力を入れたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養カウンセリング論	3	後期	選択	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。本科目は選択科目であるが、栄養士および管理栄養士受験資格の必須科目として位置付けられているため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の到達度自己評価では約98%の学生がすべての項目において、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と評価しており、全体を通して項目に差がないことが示された。試験内容としては、すべて講義内容からの出題であり、講義内容の知識の修得は概ね達成されたと考える。本科目では、コミュニケーションスキルを高めることが必要であるため、授業の中でワークを取り入れコミュニケーションが高まる工夫をしている。オンライン授業でもその点は重要視して実施した。そのため、コミュニケーション力や表現力を高めることができたかの項目では、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えた学生は100%であった。また、達成度自己評価の中央値は4.0点であり、来年度も引き続きコミュニケーション力、表現力を高めるために授業内容を工夫していきたいと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であり、管理栄養士国家試験の栄養教育論の中で出題される分野である。特に管理栄養士として就職を考えている学生にとっては、本科目は必ず身に付けておくべき分野である。学生の達成度自己評価においては、全ての項目において約98%の学生が達成したと回答しており、また最終成績においても90%以上の学生が標準的レベルに達していたため内容的妥当性については問題ないと考える。また、自由記述において、「日常からカウンセリングスキルを身につけられるよう意識したい」といった意見があり、コミュニケーションスキルが高まったことが窺える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度は、前半た対面授業、後半がオンライン授業という流れになった。前半の対面授業の中で、カウンセリング、コミュニケーションスキルを身につけるための授業を実施することができたため、オンライン授業に移行してもスキル面の修得に関しては、特に問題なく進めることができたと考える。しかし、学生の自由記述より、「この授業は対面授業がよかった」とのコメントがあったり、毎回の授業の感想でも、対面で受けたかったとのコメントがあったりしたことから、オンラインでの工夫が今後の課題である。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識の修得が達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないと考える。</p> <p>今後の課題として、オンライン授業になるため、対面授業で修得してきたコミュニケーションスキル、カウンセリングスキルの部分をどのように工夫していくか検討していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	西村 貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理学	2	後期	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2年後期になると、基礎的な知識に加え、管理栄養士として実践に向けた専門的知識が問われる。そのために、具体的な栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)、栄養補給、栄養教育、モニタリング項目、食品と医薬品の相互作用等についての理解を深め、総合的な栄養ケアマネジメントを実践するための専門分野の中でも基礎的な考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>専門的な用語が増えるため、毎時限に確認問題を配布して、復習への意識を高め、小テストの実施により学習状況を確認した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験での成績の平均値は69(±11)点であり、若干標準的レベル(70点以上)には至らなかった。また、レベル別にみると理想的レベル(80点以上)は11名(23.4%)、標準的レベル(70点以上)は12名(25.5%)、60～69点は13名(27.7%)、再試験対象者は11名(23.4%)であり、と標準偏差値が高いことから、学生の修得状況における個人差が大きかったと考えられる。再試験では11名中10名が合格であった。学生にとって、本科目は難易度の高い科目であることが明らかとなり、修得状況も個人差が大きいため、教育目標の達成は一部のみであったと考えられる。</p> <p>慣れない専門用語が多く使用される科目であり、学生からの「進行が早い」という意見から、次年度以降、標準的レベルに達する学生の割合を増やすことを目標に、授業の進行の見直し、予習の実施、復習テストの見直し等、次年度の学習意欲や習得レベルに合わせたさらなる強化の必要性が明らかとなった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、管理栄養士が臨床で担う専門性や役割について学ぶ科目であり、3年生、4年生で履修する栄養治療学、臨床栄養学実習、臨地実習Ⅱといった、より臨床栄養分野の実践的な科目へ繋げる導入科目でもある。学生の学習到達度の自己評価において、大多数が職業選択の参考になったと回答していることから病院や福祉といった臨床で活躍する専門職業人である管理栄養士を目指す礎になる内容であったと考えられる。</p> <p>しかし、試験成績は標準的レベルを達成できた学生が約48.9%と半分に満たず、学生の達成度自己評価と試験の点数の間に乖離が認められた。学生の受講動機として「関心がある内容である」と回答した学生は3名(7.5%)であったことから、受講前の科目への関心度が低い。オリエンテーションや各授業において、動機付けを行うといった工夫が必要と考えられた。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.4と低く、そうでないと答えた学生が数名認められた。一方で、「とてもわかりやすく難しい内容でも面白いと感じる」との意見もあった。次年度に向け、スライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるよう改訂を加えていく必要性が考えられた。</p> <p>なお、各授業において確認問題を提示したことから、学習量の評価や学生の意見からも、確認問題を使用した復習を行う学生が大多数いたことが明らかとなった。授業内容をすぐアウトプットするこの手法は、次年度に内容を改良しながら継続していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める臨床栄養学分野の導入科目である。特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。しかし、学生にとっては専門的用語が飛び交う科目であり、学生によっては難易度の高い科目であることも明らかとなった。確認を促す復習手法を継続しながらも、授業進行における説明方法や進行速度に対する学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、殆どの学生の受講動機は『必須科目である』との理由である。今年度は、後期開始から6回までは例年通り、対面授業を行うことができたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7回以降は全て遠隔授業となり、授業資料(ppt)は前もって郵送した。授業資料は、その日の授業開始前までにはClassroomにアップし、いつでも閲覧し、復習に使用できるようにした。学生自らの確認のために、授業後は確認テストの実施を推奨した。あくまでも自発的に行うこととしており、提出を義務付けていないため、実際にはどの程度の学生が行っていたかは不明であるが、今年度はコロナ禍での遠隔授業であったため、例年に比し、復習時間をとっていた学生が多く見受けられた。</p> <p>本科目は卒業必修科目であることに加え、臨地実習ⅡⅢの要件科目でもあるため、目標達成のためには、学生のより一層の事前事後学習への取り組みが必要であると思われる。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度の定期試験は遠隔での実施であったため、GoogleFormsを用いて試験問題を作成、二者択一または四者択一の選択肢での解答とした。本科目の本試験成績の平均値は73.3(±8.8)点、例年と同様に、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況には個人差が大きかったものと思われる。合格者は全体(80名)の90%(72名)、標準的レベル(70%以上)は73%(59名)、理想的レベル(80%以上)は24%(19名)であり、学生の学習到達度は例年よりも高い傾向がみられた。今年度は学生・教員ともに、コロナ禍での初めての遠隔授業であり、学生はひたすら講義を受講し、教員は授業内容に不足がないように、1回の講義にたくさんの資料を準備して臨んだ。本科目は3年前期の開講であり、3年後期からは臨地実習(学外実習)が始まる時期であることから、3年前期の講義実習の科目数は多く、実習においては課題が出されることも多い。加えて、コロナ禍での遠隔授業であり、講義科目においても課題が課されていたことから、学生は多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できない状況下であったにもかかわらず、本科目の成績は例年以上であった。このことは、学生の自発的学習の成果の表れであると思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、ほとんどの学生が『参考になった』と回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においてもほとんどの学生が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

例年、本科目では板書での記録としていたが、今年度の後期においても、11月上旬、本学において、新型コロナの集団感染が発生したため、急速に授業となった。授業資料については、数回分をまとめて学生の自宅へ郵送、全員の手元に資料がある状態で授業が受講できるように配慮した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての問題は無いものとする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標としている。加えて、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることを目的としている。そのため、現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の役割をより深く理解する。また、将来、医療の場で活躍する場合に必要な知識を広く深く学ぶとともに、医療人としての心構えを培う。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、学生の受講動機は『必須科目である』『資格取得に必要である』との理由であった。また、学修量の評価では、毎回課題提出を課し、臨地実習の事前事後課題等もあったことに加え、講義開始から2回のみ対面授業であったが、3回以降は急遽遠隔授業となり、学生は自発的学習に取り組んでいたことから、予復習時間の確保や記録作成は例年に比し、積極的に行われていたと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度の定期試験は遠隔での実施であったため、GoogleFormsを用いて試験問題を作成、二者択一または四者択一の選択肢での解答とした。本科目の本試験成績の平均値は84.0(±7.1)、本試験合格者は100%であった。また、2018年度以降、試験、事前・事後学習のためのレポートおよび授業貢献度として、講義内での発言、講師からの質問に対する回答等、講義に対する積極的参加について評価することとした。そのため、授業の質評価として、『評価基準』『学習の範囲や課題』についてはいずれもほとんどの学生が明らかとの回答であった。また、本科目を受講するに当たり、事前・事後の課題が課せられていたことも一因と思われるが、予復習時間を確保や授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいたことが学生の成績へと表れたものと推察される。これらのことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、ほとんどの学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたことと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことにより、管理栄養士に必要な栄養ケアの知識やスキルを深めることを目標に掲げている。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、全学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においても、ほとんどの学生が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。後学期終了後、本科履修学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性に対する気づきにもなったものと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察される。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。本科目の特徴は、現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことであり、3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結していることにある。学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、約96%の学生が標準的レベル以上を達成した。また、学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての課題はないものとする。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回の受講動機をみると、「必修科目である(76.5%)」と「資格取得に必要である(81.3%)」が高く、一方「関心のある内容である(3.1%)」は低い値であった。昨年度とほぼ同じ傾向であるため、できるだけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、授業に対する関心を持てるように引き続き改善していきたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績では9割以上の受講学生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点はほぼ3.7であった。昨年度より平均得点は0.2ポイント上昇しているものの、傾向はほぼ同様で、各項目の得点間にバラつきはなかった。今回の目標達成状況の改善が「意欲関心」の向上につながるように、さらに授業の工夫を行いたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業への「意欲関心」の低さや、その点とも関連して全般的に主体的な学習活動が低い傾向になる。また、「他の授業の課題を達成するの」に精一杯で、時間的な余裕がない」との意見もある。しかしながら、学生は一定の成績をおさめていること、到達度自己評価も全般的に高かったことから、昨年と同様に内容的は妥当であったと判断した。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、昨年度と同様の傾向だった。昨年度の後半からはコロナ渦のためオンライン授業となり、また講義系科目で、授業回数は1単位分の8回と限界があるが、引き続き可能な範囲で、学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」や「図書館利用」がかなり少なかった。この理由として、昨年度は大学の学習環境の利用が制限された点があげられる。また、昨年と同様に「授業への動機づけが低い」こともある。可能な範囲で、学生が図書館やネットを利用して調べ学習を行う時間を設けるなど、引き続き学生の主体的な取組みを促したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後も、「意欲関心」を高めるために、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。さらに、介護と「栄養」や「管理栄養士の働き」と関連づけて課題を呈示するなど、図書館などにおける主体的な学びを促したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>管理栄養士としての専門知識を身につけることができるよう、教科書を中心に授業構成を行い、身近な事例を交えながら理解が深まるように配慮した。</p> <p>また、毎回復習する重点ポイントを示し次回に発表してもらうことで、専門知識の修得を図った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は76（±7.7）点であり標準的レベルに達したが、理想レベル（概ね80点以上）に達したものは17であった。</p> <p>学生による事業評価では、知識理解の観点、専門分野における判断・意欲、技術の修得に差がなかったが、コミュニケーション力や表現力を高める観点が少し低かった。事前事後の学習量も少ないことから、予習・復習の示し方について工夫したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>・CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、臨地実習Ⅱ・Ⅲに必要な科目であるため、管理栄養士としての知識・技術を修得するために工夫をした。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当である。</p> <p>・DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業の評価から「自分の意見をまとめて発表する機会があった」と評価していることから、積極的に事業に参加するようにしたことは内容的には妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均が他より低かった。事例をあげ説明をおこなったが、テキスト等との連動が不十分であったためと考える。また対面では、テキスト中心の授業であったため、授業で使用した資料を配布しなかったことも、一因であると反省させられた。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>管理栄養士としての専門知識を身につけるためには必修の科目であることから、専門職としての知識・技術・判断・コミュニケーション能力等、総合的な知識が修得できるように工夫していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>臨地実習Ⅲに必要な科目であるため、実際に保健所、保健センター（区役所）に実習に行ったとき、実習内容が理解でき課題にも取り組めるようカリキュラムを構成した。授業で習ったことが実習をとおして自分の知識・技術の修得につながるよう工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は77.5（±3.5）点であり、標準的レベルに達したが、学習到達度の自己評価で専門分野の課題を検討する力や的確に判断する力、意欲、技術の修得ができなかったと回答した学生が若干いることから、地域で実施されている事業がイメージできるよう検討していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>・CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、臨地実習Ⅱ・Ⅲの必修科目であり管理栄養士としての専門職に必要な知識・技術を修得する科目でもある。学生も臨地実習Ⅲに臨むために受講しているため、それに応えるように授業内容を工夫し、学生も一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>・DP行動目標からみでの内容的妥当性 学習到達度の自己評価から、専門分野の課題を検討する力、判断力、意欲、技術の修得ができたことと回答したものが2割弱いることから、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均が他より低かった。外部講師からの具体的説明や事例をあげ説明を行ったが、遠隔授業となり予定していた外部講師の授業ができなかったこともあり、遠隔授業では地域で行われている事業のイメージを伝えることが難しかった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>臨地実習Ⅲに必要な科目であることから、保健所、保健センター（区役所）で行われている事業が理解できるように、事例を入れるなど工夫したが、理解できなかったことも多かったようだ。実際に管理栄養士として活躍している外部講師を活用して専門職としての知識・技術の修得に工夫していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理論	2	後期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>給食提供現場の経営管理分野に関する科目である。経営学の科目内容の約50%を占めるため、授業初回に本講義の趣旨と授業計画の説明を行っている。学習の準備性の点では、専門分野の科目としてはなじみにくい内容であることから、例年通り復習に重点を置かせている。また、実務に直結する内容というより、国家試験に必要な知識が多く含まれる科目のため、その点を重点的に説明するようにしている。さらに、本科目の中で、卒業後の就職先となり得る「特定給食施設各種の給食経営の特性」と「給食施設のマネジメント」を説明しており、学生自身の進路選択の参考となる情報提供も意識した講義内容としている。さらに、診療報酬や介護報酬の改定内容についても重点的に解説をし、医療と福祉の各領域の管理栄養士間の連携の重要性が増大している社会的背景への理解を促した。特に本年度は、全てオンライン講義であったことから、重点項目をさらに精査し、学生の理解の程度を確認しながら講義を進めることを意識した。その結果、学生らの自由記述には「厳しいが、とてもわかりやすい授業である」との評価が得られた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成されなかった	どちらともいえない	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本試験の成績は中央値（最大値-最小値）が60（36-83）点、平均値±標準偏差が59±10.6点（2019年度：平均値65.1±13.2点）であった（以下同様に記述）。また、再試対象者は26/59名；44%（2019年度：27/86名；31.4%）で昨年度より1割増加した。再試験対象者の得点は、63（46-80）点、63±8.6点であり、本試験の得点より上昇しており、再学習の成果が得られたと考える。試験の難易度は例年と同レベル（概ね70点以上の得点を理想レベルとした）であったことから、再試験対象者の学修成果としては標準レベルの到達度が得られたと考える。しかしながら、本年度の定期試験は遠隔で実施し、従来取り入れていた論述式を取り入れることができなかった。暗記で対応可能な出題形式が中心となったため、給食経営管理論分野の各項目の関連性が十分に理解できたかどうかは確認が持てない。試験はDP1（知識理解）の評価方法である。学生の到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」に関して『かなりそうだと思う、わりと思う』と評価する学生は47.2%であった（中央値4.0：昨年度中央値4.0）、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」ことに関する評価は昨年同様に高かった（中央値4.0：昨年度中央値4.0）。「学習量の評価」から、予習・復習を2回以上実施した者は61%（昨年度17.5%）、自発学習に取り組んだものは66.7%（昨年度7.5%）であり、昨年度と比較し、家庭学習への積極的な取り組みの姿勢が確認された。オンライン授業による学習意欲低下を憂慮していたが、例年同様に授業の質を落とすことのないよう意識し指導を行った教員の姿勢が伝わったものと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>臨地実習Ⅰ（給食の運営）の実習先となる各種特定給食施設の給食経営管理の内容について解説する科目でもあるため、履修学生は「資格取得に必須」の科目という認識を持っている。また、「職業選択の参考になった」と評価する学生は100%（中央値4.0, 平均値3.8）であることから、「専門応用科目」としての責務を果たしていると考え。前述した「経営学」の部分も給食施設の経営管理として解説しているため、「新たな知識の確認」という点では一定の評価（中央値4.0, 平均値3.8）が得られていると思われる。よって、内容的には妥当であると思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「意見をまとめる」「話しあう」「発表する」等の学生参加型の講義方式にすることは難しく、授業の質評価の他項目より評価が低かった（中央値3.5, 平均値3.7）。科目内容の性格上、網羅すべき内容が多く、それらが国家試験に直結する内容であるため、現在の講義方法を変更することは難しい。しかしながら、本シート4（2）でも記述したが学習量は向上しており、自由記述欄から「テキストの読みかえしをした」「復習をした」「資料の見直しをした」など昨年度には全く見られなかった意見が認められたことから、授業の進めたおよび指導方法としては適正であると確信した。オンライン授業は教員の講義力の差が如実に表れることが指摘されているが、本科目に関しては授業の質に対しての一定の評価が得られたことが裏付けられたと考える。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>給食経営管理分野の講義科目として、学内実習・臨地実習に向けての知識を教授する位置づけの科目である。到達度自己評価の結果からは、給食施設における管理栄養士の業務内容への一定の理解は得られており、職業選択の参考となる講義内容など、評価に値すると考える。ただ、「授業が早い」との意見が見られるため、この点は次年度以降の授業時に改善すべき点である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学実習	2	後期	必修	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機に対する回答で、すべての学生が「必修科目である」ことを理解しているにもかかわらず、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのは28.9%と少なく、また、「関心のある内容である」と答えたものはわずか8.9%であった。栄養学の基礎知識・技術が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも活用できる重要事項であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。</p> <p>②今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、後期の前半は対面授業、後半はオンラインで実施した。対面の実習では、従来通り、栄養素およびその代謝産物を測定し、各栄養素の栄養学的意義とその代謝について理解できるように留意した。後半のオンライン授業では、測定などのやり方については動画などを用いて説明し、測定結果については以前の代表的データを提示して、その意義を考察させるようにした。</p> <p>③それぞれの実習について、その栄養学的意義について考えさせるためのレポートを課し、1、2年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の成績評価は、「知識・理解」および「思考・判断」を評価した期末課題（60%）および実習課題レポート（30%）、「関心・意欲」を評価したその他（10%）とした。</p> <p>②実習成績の平均点は、Aクラス83.5±16.1、Bクラス86.6±5.1、ABクラス全体で85.2±11.6であった。不合格者は実習課題レポートおよび期末課題が未提出であった1名（Aクラス）のみで、それ以外は全員合格した。90点以上の好成績を修めたものは、ABクラス全体で14名（Aクラスで4名、Bクラスで10名）であった。</p> <p>③今回の実習は、新型コロナウイルス感染予防のため、後期後半は遠隔授業として実習を実施した。初めての経験であったのでいろいろと改善すべき点もあったと思うが、学生の授業評価アンケートの”到達度自己評価”においては、すべての項目の平均値が3.6～4.0で、昨年と同じかそれより高い値であった。特に、項目(1)から(6)の平均値が昨年より+0.1から+0.4高い値であった。以上より、おおむね教育目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 今年度の後期後半の実習については、新型コロナウイルス感染予防のために動画配信などによる遠隔で実施した。学生自身が測定などを実際に体験することができなかったことは、やむを得ないことであったにしても、実習としては不都合であった。ただ、配信した測定結果をもとに行う考察、実習テーマに関する設問への回答などは遠隔授業でも十分に実施できたと思われる。各実習の課題レポート、期末課題については、全員が良好な成績を収めていることから、「栄養学の基礎的知識を栄養指導・栄養教育の現場に応用できる」という最終目標の基本的な部分は、おおむね達成できていると考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績は実習レポート・期末課題ともに良好であることから、内容的にはおおむね妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度後期後半の実習は、コロナ感染予防のために遠隔で実施されたが、「授業の質評価」において、すべての項目で昨年より高い評価であった。特に項目(1)「テスト、レポートなどの評価基準の明確さ」の平均値が4.2(昨年比+0.5)、項目(2)「期間内に行うべき学習の範囲や課題の明確さ」の平均値が4.1(昨年比+0.4)と比較的高い評価であった。実習レポート、期末課題の成績もかなり良好であったこと、また、自由記述においてもポジティブな記述が多かったことより、授業の目標は達成できたと考えている。従来に対面型の実習に比べ、今回の遠隔授業を交えた実習がより高い評価であった理由として、今回の実習では、実際に測定などをする代わりに、レポート課題の設問について、直接、その場で学生に考えさせ、答えさせる時間を多く取れたことがよかったのかもしれない。</p> <p>次年度に向けて、さらに知識を深め、技術を身につけることのできる実習を心掛けるとともに、学生がより積極的に実習に参加できるよう改善していきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、栄養治療・栄養指導の基本となる栄養学の基礎的な知識の形成については概ね達成できたと考える。また、思考判断の面でもある程度は実習の目標を達成できたとされる。</p> <p>②今回の実習は、一部、遠隔授業であったにもかかわらず、「授業の進め方」について例年より高い評価であった。これは、遠隔授業では学生への質問などが対面よりもより容易に（あるいは、より1対1の質疑として）行えることが理由の一つだと思われる。今後、コロナ感染が終息して対面授業となっても、なるだけ双方向型の授業になるよう留意したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	西村 貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、病態、食事療法について理解し、生活習慣の改善や傷病者に対する食事療法を支援するための栄養カウンセリング技法の獲得、個人および集団に対して適切な栄養教育ができるようになることを目的としており、一つの課題をグループ学習を通して複数回に亘り協議することにより、多職種協働を理解し、コミュニケーションスキルを身に付けることを目標とする授業を展開した。</p> <p>本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であるという位置づけであるため、多くの学生の受講動機は、「必修科目である」「資格取得に必要である」との理由であった。開講時の「学修準備性」については、授業の最初にアンケートを行っていないため学生の準備性の事実を把握できていないことから、今後は準備性を把握し、授業計画に活かしたいと考える。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、78.2点(±6.2点)であり、不合格者は0名であった。標準的レベルに達した者（70点以上）は75名（96.2%）であり、中でも理想的レベル（80点以上）に達した者は28名(37.3%)であった。成績評価は、課題提出、ロールプレイ、発表および発表に関する取り組みにより行った。ロールプレイおよび発表は、評価基準を示し学生同士による評価ならびにフィードバックを実施した。標準的レベルに達していないものは、特に、今まで修得してきた専門基礎科目に課題が残る学生であった。次年度では、毎授業で学修内容の確認を行うよう促していきたい。</p> <p>学習到達度の自己評価においては、どの項目においても95%以上が「そうだと思う」と回答しているため、教育目標は概ね達成されたと考えられる。一方、本科目では、栄養教育のための教材作成で情報の収集が必要であるが、本年度の授業が遠隔によって行われたため、図書館の利用が難しい状況であり、インターネットによる情報収集に頼っている学生が多かった。根拠のある情報を収集するためにも、学術データベースを利用する学生を増やすことも今後の課題であると考えます。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の中の「専門分野」に位置し、「臨地実習」へとつながる科目である。栄養士資格取得、管理栄養士国家試験受験資格に必須となっている。栄養管理プロセス及び栄養ケア・マネジメントの一連を演習・実習することによって、臨床での栄養管理について総合的なマネジメントする能力を修得する科目であり、栄養士、管理栄養士を目指す学生にとって必ず身に付けておくべき技術修得を目指した。学生は一定の成績を取めているという結果から、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>さらに、学生の授業評価では、到達度自己評価においてDP5に該当する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は97%の学生が「そうだと思う」と答えており、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、複数回の授業を経て、一つの課題に対してグループ討議を重ねていく授業展開であった。加えて、課題に向かうことで、これまで学んだ専門基礎科目を振り返ることが求められた。そのため、学生からの授業課題以外の学習に取り組んでいない理由として、「課題で精一杯だった」「課題作成で充分と判断した」「内容が充実していた」との意見が多数寄せられた。これらの意見から、授業に真摯に取り組むことで専門基礎科目を含めた総合的な実習を行うことができたことと評価できた。</p> <p>一方、授業の質評価において、「評価基準や課題が明らかであったか」の項目で、「全くそうでない」「少しそうでないと思う」と約3%の学生が回答していた。本科目は、筆記試験による評価がないことから、栄養教育の実習についての評価基準を見える化する必要性が考えられ、この点を次年度への課題としたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、3年後期から始まる臨地実習Ⅱにつなぐため、臨床における傷病者を対象とした個人栄養教育、集団栄養教育の実習・演習を行った。実際に、身体計測や食事調査を行い、実践に近い進行を行ったことで、今まで学んできた専門基礎科目の復習に繋がっていた。できる限り、現場での実践を想定し授業進行を組み込んでいきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に応じた適切な栄養管理を行うため、疾患の成因・病態ならびに治療法を把握し、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法を理解することを目的としている。また、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整、栄養指導までの一連の流れについて、実習することにより、臨床栄養分野における管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、学生の受講動機は『必須科目である』であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、多くの学生が予習復習時間を確保していたが、自発的学習に取り組んだ学生は十分とは言えなかった。また、今年度は、後期開始から6回までは新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、1クラスを前半と後半に分けて、対面実習を行った。しかし、本学において、集団感染が認められたことから、新型コロナ感染拡大防止のため、7回以降は全て遠隔授業となり、授業資料(ppt)は前もって郵送した。授業資料は、その日の授業開始前までにはClassroomにアップし、いつでも閲覧し、復習に使用できるようにした。また、本科目は調理実習を含んでいるが、遠隔では実施できなかったため、事前に調理動画を撮影し、授業内で配信した。今年度は実習の後半はコロナ禍での遠隔授業であったため、例年に比し、復習時間をとっていた学生が多く見受けられた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度の定期試験は遠隔での実施であったため、GoogleFormsを用いて試験問題を作成、二者択一または四者択一の選択肢での解答とした。本科目の本試験成績の平均値は67.3(±7.0)点であり、昨年度の成績とほぼ同程度であった。また、本試験合格者は全体の92%であり、昨年度よりもやや高かった。実際には、27名(36%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は4名(5%)であり、いずれのレベルを達成できた学生についても減少した。達成度評価の指標は、筆記試験、実習試験、課題、発表等であり、学生の学修の成果が十分に反映されるよう配慮しており、例年に比し、大きく変更した点はなかったものの、全体的に成績が低下していたことに対しては、今年度のコロナ禍での遠隔実習の影響も一因であることと推察する。本科目は学外実習(臨地実習II)と連動している内容であることから、例年、学生に対し、対面にて厳しく指導していたが、今年度は多くの実習回が遠隔での実施となり、学生一人一人に対応した指導ができていたとは言い難い。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においてもほとんどの学生が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。後学期終了後、本科目履修学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性に対する気づきにもなったものと思われる。しかしながら、例年、学生に対し、対面にて厳しく指導していたが、今年度は多くの実習回が遠隔での実施となり、学生一人一人に対応した指導ができていたとは言い難い。しかし、学生からのコメント含め、本科目に対するマイナス要因での指摘はなかったことから、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったものの、今年度の後期においても、11月上旬、本学において、新型コロナウイルスの集団感染が発生したため、急速遠隔授業となった。授業資料については、数回分をまとめて学生の自宅へ郵送、全員の手元に資料がある状態で授業が受講できるように配慮した。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、内容等についての問題は無いものとする。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 &lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>公衆栄養学Ⅰ・Ⅱの学びを深め、臨地実習Ⅲに必要な科目でもあることから、実際に栄養指導をする対象を設定し、グループで食生活・栄養改善事業が企画できるようにグループ学習を中心に、公衆栄養マネジメントの基本であるPDCAサイクルを実施できるよう工夫をした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。  &lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は77.8 (±8.1)点であり、標準的レベルに達したが、学習到達度の自己評価では各項目において「少しそうでないと思う」と回答した学生が若干いることから、グループ演習で発言力の差が影響したのではないと思われる。また、最初対面授業で計画し、途中から遠隔授業に切り替わり、対面授業が始まる予定がならずと授業形態が何度も修正されたため、遠隔授業でのグループ演習の進めかたに工夫が必要だったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>・CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、管理栄養士としての専門職に必要な知識・技術を修得する科目である。学生も管理栄養士国家試験に臨むためにも受講しているため、それに応えるように演習をととした授業内容に工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>・DP行動目標からみでの内容的妥当性 学習到達度の自己評価から、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均が他より高いことから、演習をととして修得できたことから内容的には妥当であったと考えます。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均が他より低かった。遠隔授業でグループ演習を指導することの難しさを感じた。 事業評価がレポートでの評価となるため、途中で遠隔授業になったために、対面授業で作成したレポート提出の方法を何度も変更することになり学生に迷惑をかけた点は反省点である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>公衆栄養学Ⅰ・Ⅱの学びを深め、公衆栄養活動を展開できるようグループ演習を中心に授業を構成したが、遠隔授業でグループ演習をすることは制限が多く課題を残した。今後も遠隔授業となった場合は、課題の内容を検討しグループ演習の進め方を検討していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>管理栄養士・栄養士の要件科目であり、3年前期・給食経営管理実習Ⅱ（以降、実習Ⅱとする）の基礎となる科目である。履修動機としては「必修科目である」が100%、「資格取得に必要」が35.6%であった。卒業必修、管理栄養士・栄養士資格必修選択科目、また臨地実習Ⅰの要件科目であるため、前述のような結果となった。</p> <p>特定給食施設を想定した生産管理、衛生管理、品質管理、原価管理の計画・実施を、各管理内容に必要な帳票整理を通して評価・改善を行わせる内容である。学生の自主学習が実習進行度および給食管理に関する習熟度に影響を及ぼすため、2年前期・給食計画論で必要な知識の習得に努め、本実習で実践する流れを作っている。2020年度は全て遠隔授業となったため、実施予定であった給食実習献立のデモンストレーションをライブ配信することで、大量調理の特性と工程管理の指導を行った。このほか、大量調理を伴う実習では、細部まで諸注意が行き届きにくい「大量調理施設衛生管理マニュアル」に沿った衛生管理のポイントを押さえることが可能となった。調理デモをオンデマンド方式にせずライブ配信したことで、学生からは「わかりやすかった」「授業に積極的なれた」「どの授業よりも身になった」などの意見が得られた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった		やや達成された		やや達成されなかった
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合成績の点数は中央値（最小値-最大値）75.5（28-85）点、平均値73.4±21.3（2019年度81.0±9.9）であった。再試対象者は2/48名（4.2%；2019年度9/75名12%）であった。記述試験については、昨年度と同レベルの内容であったが、4年連続して再試対象者の減少が認められた。実習科目を遠隔授業で実施することには限界があり、特に技術面の修得がほぼできなかった（DP5）。しかし、栄養計画および献立計画については、献立作成課題を通して基本的部分を重点的に指導を行うことができ、昨年度受講生の2020年度前期課題と比較して完成度は高かった。これらの事実から、DP5に関しては、実習を通じた給食運営の技術習得はできなかったが、栄養管理業務については課題を通して標準レベルへ到達したと思われる。到達度自己評価は全ての項目において高い評価（中央値：4.0）となった。学習量の評価では、2回以上の予習をした者が62.2%（2019年度54.7%）、復習をした者が62.2%（同45.3%）、授業以外の学習への取り組みが57.8%（同26.7%）であり、本実習内容および管理栄養士業務への意欲・関心の向上が認められたと判断する。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本実習は専門科目、臨地実習への準備科目としての位置づけである。専門的知識については実習の中で網羅されており、DP、CP、カリキュラムマップからみて、内容的に妥当であると考え。しかしながら、本来この『給食経営管理実習』で習得すべき「給食の運営」技術に関しては、遠隔授業で教授することが不可能であった。子の1点に関してのみ、2020年度に限定して内容的妥当性が得られなかったことが悔やまれる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価より、全ての項目で昨年度同様に高い評価〔平均値3.7～4.1, 中央値4.0 (2019年度：平均3.7～4.0, 中央値4.0)〕を得た。本実習は、遠隔授業といえども、課題が多く、時間外に予習し、準備する内容も多い。そのため、実習一連の流れを十分に理解し、学生自身が自主的に取り組むことが必須である。特に2020年度は遠隔授業ということもあり、実習項目の節目を強調し、振り返りのための簡単なオリエンテーションを追加し、「教員が指示する」のではなく、「学生同士で考えて、検討し実施する」ことを促した。自主性という点では予習・復習の取り組みの状況を見る限り、昨年度より飛躍的に良好な結果が得られたと思われる。一部、「説明が早くて大変であった」との意見があったため、今後は説明速度に注意を払いたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本シート3.にも記述したが、自由記述には遠隔授業であるにもかかわらず非常に高評価の意見が出されており、「遠隔授業への積極性」を惹起するレベルの遠隔実習を計画・実施することができたと考える。14回の遠隔実習計画および実施を通して、2020年度のような不測の事態へ対応可能な講義技術が身についたことは、財産となつと考える。さらに、これまで見送っていた「新調理システム」を導入に踏み切り、学内実習を通して最新技術の理解や習得へつなげることが可能となった。これらは継続して実習内容に取り入れ、本実習をよりブラッシュアップしていきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした</p> <p>②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していた。</p> <p>③おそらく初めて哲学的・教育学的思考に挑むので、わかりやすい説明を心懸け、レジュメにも前年の反省点を踏まえて改訂を加えた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>記述式の試験であるし、内容も毎年異なるので、点数での比較は難しい。到達度及び授業の評価を見ると「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」にかなりの数字が入っているが、一方で「全くそうでない」「少しそうでない」というのが若干いる。おおむね授業は楽しんでもらったが、一部に全く理解できなかった学生がいることも確かである。しかし、それは少数なのでおおむね、学んだ実感は与えたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>よくわからなかったとか、講義の内容に対する疑義について自由記述で書かれた内容についてはその言葉を重視して全学生に授業評価に対する回答を作成して渡している。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>全体的に良好であった。来年も維持できるようにねいな説明と対話に心懸けたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>○学科平均点66.9点（全体平均点78.1点）、秀1名（11.1%）、優1名（11.1%）、良1名（11.1%）可5名（56.5%）、不可1名（11.1%）、SD16.1。</p> <p>参考：学科平均57.5点。秀5.9%、優0%、良23.5%、可29.4%、不可9.1%。</p> <p>○平均点は10点上昇、秀と優の合計が6%増加した。ただし全ての階級で可が突出している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

○視聴覚教材としてのビデオなどへの反応があったため、今後とも教材開発や利用を進めたい。

○歴史や社会に関する知識・関心に差があるため、これを埋めるための工夫を行いたい。

○成績対象外ではあるが中間試験を導入したことで本試験の成績が向上したと考えられる。ただし選択肢を細かい条件で判断しなければならないような設問や学習内容を踏まえた応用的な設問に対応できない学生も少なくなかった。知識をどのように応用することができるのかという例題の提示が不足していたかもしれない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○授業内容と教員としての将来像が結びつくような授業内容を工夫したい。

○中間試験の回数を増やす、授業中のクイズなどを積極的に活用するなど工夫したい。

○次年度は教員養成のカリキュラム改革によってシラバス内容の一部が変更される。より多様な内容を取り上げることになるため、知識が細分化されないように横のつながりを意識した授業を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。</p> <p>②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。</p> <p>③殊に新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。</p> <p>④オンラインの試験で前年は知識のみを問う選択式にしたが、「教育課程論」としての〈知〉には至らなかったと思い、今年は創造的契機を喚起する形式にしてみた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生の数が少ない（10名）のでなんとも言えないが、理解度は決して高いとは思えない。また、独自の方式の試験にしてみたので、他年度との比較はできない。しかし、再試験で急速に内容がよくなっていたので、意欲のツボに入れば伸びると感じた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>よくわからなかったとか、講義の内容に対する疑義について自由記述で書かれた内容についてはその言葉を重視して全学生に授業評価に対する回答を作成して渡している。今回はA4で9頁になった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>再試験に際して感じたが、対話を深めれば伸びるであろうと感じた。</p>
-------------------------------	--